

官報

號外 昭和十一年五月二十日

○第六十九回 貴族院議事速記第十號

帝國議會

昭和十一年五月十九日(火曜日)午前十時十七分開議

議事日程 第十號

昭和十一年五月十九日

午前十時開議

- 第一 職業紹介法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第二 重要輸出品取締法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第三 輸出絹織物取締法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第四 輸出組合法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第五 競馬法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第六 昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第七 昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第八 昭和七年法律第一號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第九 昭和九年法律第七號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十 對支文化事業特別會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十一 米穀自治管理法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十二 米穀統制法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十三 糶共同貯藏助成法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十四 昭和十一年勅令第七號(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十五 東北興業株式會社法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十六 東北振興電力株式會社法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十七 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十八 岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル資產買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十九 江當軌道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行

ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十 商工組合中央金庫法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(公爵近衛文麿君) 報告ヲ致サセマ

ス(角倉書記官朗讀)

昨十八日産滿處理統制法案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 男爵大森 佳一君

副委員長 子爵松平 康春君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

東北興業株式會社法案可決報告書

東北振興電力株式會社法案可決報告書

鐵道敷設法中改正法律案可決報告書

岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル資產買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

江當軌道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

商工組合中央金庫法案可決報告書

昭和九年度歲入歲出決算審査報告書

昭和九年度國有財產増減總計算書審査報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

職業紹介法中改正法律案

ル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和九年法律第七號中改正法律案

對支文化事業特別會計法中改正法律案

昭和十一年勅令第七號(承諾ヲ求ムル件)米穀自治管理法案

米穀統制法中改正法律案

糶共同貯藏助成法案

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

昭和九年法律第四十五號中改正法律案

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員仰付ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

第六十九回帝國議會内務省所管事務政府委員

内務書記官 兒玉 九一君

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員免セラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

第六十九回帝國議會内務省所管事務政府委員

内務書記官 入江誠一郎君

本日第一部ニ於テ豫算委員松本勝太郎君ノ補闕選舉ヲ行ヒシニ其ノ結果佐々木八十八君當選セリ

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、昨十八日古島一雄君ヨリ病氣ニ付キ、豫算委員辭任ノ申出ガゴザイマシタ、之ヲ許スコトニ御異議ハゴザイマセスカ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

明治二十五年三月三十一日

メマス、就キマシテハ第五部ニ於テ、補開選舉ヲ行ハレムコトヲ望ミマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第一、職業紹介法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、鍋島政務次官

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノクメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

職業紹介法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月十八日

衆議院議長 富田幸次郎 貴族院議長 公爵近衛文麿殿

職業紹介法中改正法律案

職業紹介法中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

特別ノ必要アル場合ニ於テハ北海道府縣ハ職業紹介所ヲ設置スルコトヲ得

第四條 第二條ノ職業紹介所ハ之ヲ設置スル公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ管

第五條 北海道府縣市町村ニ非ザル者職業紹介所ヲ設置セントストキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第七條 職業紹介所ノ事業ノ聯絡統一ハ内務大臣及地方長官之ヲ管掌ス

第九條 第二條ノ職業紹介所ニ關スル經費ハ之ヲ設置スル公共團體ノ負擔トス

第十條中「職業紹介所ニ關スル經費ノ支出ヲ爲ス市町村」ヲ「第二條ノ職業紹介所ニ關スル經費ノ支出ヲ爲ス公共團體」ニ改ム

第十二條中「職業紹介事務局ノ長」ヲ「地方長官」ニ改ム

第十三條ノ二 命令ノ定ムル所ニ依リ多數ノ勞務者ヲ雇傭セントスル者ハ職業紹介上必要ナル事項ヲ地方長官ニ通報スベシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員子爵鍋島直繩君演壇ニ登ル)

○政府委員(子爵鍋島直繩君) 只今上程ニナリマシタ職業紹介法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、現行ノ職業紹介法ハ大正十年七月ヨリ實施セラレ、爾來約十五年ヲ經過致シタノデアリマスガ、其ノ間公益職業紹介所ハ漸次發達ヲ遂ゲ、現在ニ於テハ失業者乃至未就職者ニ對スル就職機關トシテ活動スルニ止ラズ、産業ニ對スル所要勞働者ノ供給機關トシテノ職能ヲバ、漸次發揮スルノ情況ニ相成ツテ居リマス、併シナガラ本法施行以來幾多ノ經驗ニ徴シマスルニ、職業紹介事業ノ一層ノ發展ヲ期スルガ爲ニ、現行法ニ相當ノ改正ヲ加フルノ必要ヲ認ムルニ至ツタノデアリマス、改正法律案ノ主ナル點ハ、職業紹介ニ關スル行政機構ノ改革デアリマス、即チ現行法ニ於テハ、職業紹介所ノ事業ノ連絡統一竝ニ監督ノ事務ニ付キマシテハ、内務大臣ノ下ニ中央及地方職業紹介事務局ヲ設ケテ、之ヲ管掌セシメテ居ルノデアリマスガ、是等ノ職業紹介事務局ヲ廢止シ、其ノ所管事務ハ之ヲ内務大臣及地方長官ニ移管スルコトトシ、地方ニ於キマシテハ失業救濟事業、職業指導、授産竝ニ職業輔導事業、移民事業等、職業紹介所ニ密接ナ關係ヲ有スル各種ノ地方行政事務ト併セ、地方長官ノ下ニ綜合的ニ之ヲ管掌セシムルト共ニ、中央ニ於テハ直接内務大臣ニ於テ之ヲ管掌シ、以テ職業行政ノ進展ヲ期セムトスルノデアリマス、

次ニ現在職業紹介所ハ、原則トシテ市町村ヲ經營主體トスルノデアリマスガ、此ノ原則ノミニ依ルトキハ、必ズシモ之ガ十分ノ發達ト、分布ノ適正ヲ期シ難イ場合モアリマスノデ、特別ニ必要ナル場合ニ於テハ、市町村ノ外ニ道府縣モ亦職業紹介所ヲ設置シ得ルコトト致シタノデアリマス、以上ハ何レモ職業紹介制度ノ擴充ヲ圖リ、勞務ノ需給調節ノ機能ヲ大ナラシメ、以テ職業行政ノ確立ヲ期セムトスル趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ切望致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 別ニ御質疑ガナケレバ、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀致サセマス

(角倉書記官朗讀)

職業紹介法中改正法律案特別委員

侯爵大隈 信常君 伯爵川村鐵太郎君

子爵白川 資長君 男爵井田 馨楠君

男爵山根 健男君 竹越與三郎君

川上 親晴君 安立 綱之君

高島 順作君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二、重要輸出品取締法案、日程第三、輸出組織物取締法中改正法律案、日程第四、輸出組合法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シテ議題トナス

コトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、小川商工大臣

重要輸出品取締法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月十八日 衆議院議長 富田幸次郎 貴族院議長 公爵近衛文麿殿

重要輸出品取締法案

重要輸出品取締法案

第一條 本法ノ適用ヲ受クル重要輸出品ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 重要輸出品ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ検査ヲ行フ者(検査機關)ノ検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 販賣ノ目的ヲ以テ重要輸出品ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ重要輸出品ガ前條ノ規定ニ從ヒテ輸出セラルルモノナルコトニ付行政官廳ノ檢閲ヲ受クベシ

第四條 検査機關其ノ検査ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止セントストキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五條 検査機關ハ検査員ヲ置クベシ

検査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

主務大臣必要ト認ムルトキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

検査機關ハ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントストキ亦同ジ

第六條 主務大臣ハ検査機關ニ對シ検査施行上必要ナル施設ヲ命ジ、検査ノ狀

重要輸出品取締法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

況ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 検査機關本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ其ノ検査ノ全部若ハ一部ノ停止ヲ命ジ又ハ第二條ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第八條 主務大臣重要輸出品ノ輸出ニ關シ取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保税地域内ニ於テ又ハ店舖、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反シテ重要輸出品ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第九條 重要輸出品ノ検査ニ關シ第二條ノ命令ノ規定ニ依リ之ニ附シタル検査機關ノ印章、記號又ハ證票ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ抹消シ、除却シ又ハ隠蔽スルコトヲ得ズ

前項ノ印章、記號又ハ證票ヲ抹消シ、除却シ又ハ隠蔽シタル重要輸出品ハ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ

第十條 前條ノ記號若ハ證票ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ記號若ハ證票ヲ偽造シ若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ記號若ハ證票ヲ使用シ

タル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ニ掲ゲタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

第十一條 検査機關ノ役員又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十二條 前條第一項ニ掲ゲタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十三條 第二條、第三條又ハ第九條第二項ノ規定ニ違反シテ重要輸出品ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル重要輸出品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 正當ノ理由ナクシテ第八條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢、検査、搜索若ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

二 第九條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第十五條 重要輸出品ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十三條第一項ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 左ノ場合ニ於テハ検査機關ノ役員ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケベキ事項ヲ認可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 本法ニ依ル主務大臣ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十八條 輸出ノ目的ヲ以テ爲ス重要輸出品ノ移出ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ重要輸出品取締規則ニ依リ認可ヲ受ケ検査ヲ行フ工業組合、工

業組合聯合會、重要物産同業組合、重要物産同業組合聯合會又ハ公益法人ニシテ重要輸出品ノ検査ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル検査機關ノ重要輸出品ニ關スル検査員又ハ其ノ職務ニ關スル規程ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ第五條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
本法施行前ニ重要輸出品取締規則ニ依ル検査ニ合格シタル重要輸出品ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ検査ニ合格シタルモノト看做ス

第三條ノ規定ハ本法施行前ニ前項ノ重要輸出品ノ輸出ニ付關稅法第三十一條ノ免許ヲ受ケタル者ガ其ノ重要輸出品ノ輸出ヲ爲サントスル場合ニハ之ヲ適用セズ

輸出組合法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月十八日
衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 公爵近衛文麿殿

輸出組合法中左ノ通改正ス
第九條ノ二ヲ第九條ノ四トス
第九條ノ二 前條ノ規定ニ依リ主務大臣輸出組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ從フベキコトヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ取締又ハ制限ニ從ヒ輸出スベキ商品ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ商品ガ其ノ取締又ハ制限ニ

業組合聯合會、重要物産同業組合、重要物産同業組合聯合會又ハ公益法人ニシテ重要輸出品ノ検査ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル検査機關ノ重要輸出品ニ關スル検査員又ハ其ノ職務ニ關スル規程ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ第五條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

本法施行前ニ重要輸出品取締規則ニ依ル検査ニ合格シタル重要輸出品ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ検査ニ合格シタルモノト看做ス

第三條ノ規定ハ本法施行前ニ前項ノ重要輸出品ノ輸出ニ付關稅法第三十一條ノ免許ヲ受ケタル者ガ其ノ重要輸出品ノ輸出ヲ爲サントスル場合ニハ之ヲ適用セズ

從ヒテ輸出セラルルモノナルコトニ付
行政官廳ノ檢閲ヲ受クベシ

第九條ノ三 主務大臣第九條ノ規定ニ依
リ輸出組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ從
フベキコトヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ
取締又ハ制限ニ從ヒ輸出スベキ商品ノ
輸出ニ關シ取締上必要アリト認ムルト
キハ當該官吏ヲシテ保税地域内ニ於テ
又ハ店舗、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ
臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査
セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏第九條ノ規
定ニ依ル命令又ハ第九條ノ二ノ規定ニ
違反シテ商品ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ
爲サントシタル者アリト認ムルトキハ
被疑者若ハ参考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ
事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之
ガ差押ヲ爲スコトヲ得
臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ聞
接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第三十八條 第九條ノ規定ニ依ル行政官
廳ノ命令ニ違反シタル者又ハ第九條ノ
二ノ規定ニ違反シタル者ノ輸出ヲ爲シ
タル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス第九條
ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令又ハ第九
條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ノ輸出ヲ
爲サントシタル者亦同ジ

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ
所持スル商品ヲ沒收スルコトヲ得若シ
其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハ
ザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ
得

輸出ヲ業トスル者ハ其ノ代理人、戶主
家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ
其ノ業務ニ關シ第一項ノ罪ヲ犯シタル

トキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以
テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十八條ノ三 正當ノ理由ナクシテ第
九條ノ三ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢、
檢査、搜索若ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ
忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サ
ズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百
圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ商品ノ
輸出ニ付關稅法第三十一條ノ免許ヲ受ケ
タル者ガ其ノ商品ノ輸出ヲ爲サントスル
場合ニハ之ヲ適用セズ
輸出絹織物取締法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月十八日
衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 近衛文麿殿

輸出絹織物取締法中改正法律案
輸出絹織物取締法中左ノ通改正ス
第一條ノ二 營利ノ目的ヲ以テ輸出絹織
物ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定
ムル所ニ依リ其ノ輸出絹織物ガ前條ノ
規定ニ從ヒテ輸出セラルルモノナルコ
トニ付行政官廳ノ檢閲ヲ受クベシ

第六條 主務大臣取締上必要アリト認ム
ルトキハ當該官吏ヲシテ保税地域内ニ
於テ又ハ工場、店舗、倉庫其ノ他ノ場
所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ
檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏第一條又ハ

第一條ノ二ノ規定ニ違反シテ輸出絹織
物ヲ輸出シ又ハ輸出セントシタル者アリ
ト認ムルトキハ被疑者若ハ参考人ヲ尋
問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件
ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ聞
接國稅犯則者處分法ヲ準用ス
第八條第一號中「又ハ前條第二項」ヲ「第
一條ノ二又ハ前條第二項」ニ改メ同條ニ
左ノ一項ヲ加フ

前項第一號ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有
シ又ハ所持スル絹織物ヲ沒收スル
コトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收
スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追
徴スルコトヲ得

第九條中「臨檢檢査」ヲ「臨檢、檢査、搜索
若ハ差押」ニ改ム
第十一條ノ二 輸出ノ目的ヲ以テ爲ス輸
出絹織物ノ移出ニ付テハ勅令ノ定ムル
所ニ依リ本法ノ一部ヲ準用スルコトヲ
得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第一條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ輸出絹
織物又ハ輸出入造絹織物ノ輸出ニ付關稅
法第三十一條ノ免許ヲ受ケタル者ガ其ノ
輸出絹織物又ハ輸出入造絹織物ノ輸出ヲ
爲サントスル場合ニハ之ヲ適用セズ

〔國務大臣小川郷太郎君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(小川郷太郎君) 只今議題ト相
成リマシタ重要輸出品取締法案、輸出絹織
物取締法中改正法律案、輸出組合法中改正
法律案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、
先ツ第一ニ重要輸出品取締法案提案ノ理由
ヲ御説明申上ゲマス、御承知ノ通り本邦輸

出貿易ハ、最近著シキ發達ヲ遂ゲマシテ、
其ノ輸出額ハ年ト共ニ増進シツ、アリマス
ガ、之ニ伴ヒマシテ本邦中小産業ノ宿弊ト
シテ、動モスレバ粗製濫造ノ弊ニ陥リ、品
質ノ低下ヲ來シ、海外市場ニ於テ不評ノ聲
ヲ聞クコトガ少クナイノデアリマス、仍テ
政府ハ重要輸出品ニ付キ、昭和三年以來重
要輸出品取締規則ニ依リ、工業組合、重要
物産同業組合、其ノ他ノ團體ヲシテ輸出檢
査ヲ施行セシメ、粗製品ノ輸出ヲ取締シテ來
タノデアリマス、然ルニ其ノ後ノ情勢ヲ見
マスニ、本邦重要輸出品ニ付テハ、未ダ粗
製濫造ノ弊ヲ斷タズ、此ノ儘ニシテ推移致
シマスレバ、海外市場ニ於ケル聲價ヲ失墜
スルニ至ル虞ガアルノデアリマス、而シテ
之ヲ矯正スルガ爲ニハ、右ノ取締規則ヲ以
テシテハ尙不十分デアリマスノデ、法律ヲ
制定シテ重要輸出品ノ検査制度ヲ設ケ、更
ニ其ノ輸出ノ取締ヲ行ヒ、以テ海外市場ニ
於ケル本邦重要輸出品ノ聲價ノ維持向上ヲ
圖リ、本邦輸出品ノ健全ナル發達ヲ圖ラ
ムトスル次第デアリマス、次ニ輸出絹織物
取締法中改正法律案提案ノ理由ヲ御説明申
上ゲマス、輸出絹織物及人造絹織物ニ付キ
マシテモ、重要輸出品ニ於ケルト同様、動
モスレバ粗製濫造ノ弊ニ陥リ、海外市場ニ
於キマシテ不評ノ聲ヲ聞クコトガ少クナイ
爲メ、政府ハ輸出絹織物取締法ヲ制定シ、
輸出絹織物ニ付テハ昭和三年ヨリ、輸出入
造絹織物ニ付テハ昭和九年ヨリ、國ニ於テ
輸出検査ヲ施行シ、以テ粗製品ノ輸出ヲ取
締シテ來タノデアリマス、併シナガラ現行法
ノ右取締ニ關スル規定ハ尙不十分デアリマ
シテ、動モスレバ不合格品及未検査品等ノ
輸出ヲ見マスノデ、茲ニ法律ヲ改正シ、其

ノ輸出ノ取締ニ關スル規定ヲ整備シ、是等
 織物ノ海外市場ニ於ケル聲價ノ維持向上ヲ
 圖リタイノデアリマス、第三ニ輸出組合法
 中改正法律案提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマ
 ス、最近海外諸國ニ於キマシテ頻リニ採用
 スル種々ノ輸入制限策ニ對處シ、又ハ賣込
 競争ニ因ル弊害ヲ防止スル爲メ、輸出ノ統
 制ヲ確保スルコトハ、輸出貿易ノ健全ナル
 發達ヲ圖ル上ニ於テ緊要ナコトデアリマス
 ノデ、輸出組合法ヲ改正シ、統制命令ニ依
 リ輸出統制ヲ行フ場合ニ於テ、重要輸出品
 取締法案ニ於ケル場合ト同様ノ、輸出取締
 フ行ハムトスルモノデアリマス、以上ガ重
 要輸出品取締法案外ニ法案ヲ提案致シテ理
 由デアリマス、何卒十分御審議ノ上、御協
 贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望シテ已マナイ次
 第デアリマス

○子爵池田政時君 只今上程サレマシク重
 要輸出品取締法案外ニ法案ヲ提案致シテ理
 デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ
 二十七名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スル
 動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 贊成
 ○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議
 ニ御異議ハゴザイマセヌカ
 (異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認
 メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
 (角倉書記官朗讀)

重要輸出品取締法案外ニ特別委員
 公爵島津 忠重君 侯爵徳川 義親君
 侯爵松平 康昌君 伯爵林 博太郎君
 子爵伊集院兼知君 子爵井上匡四郎君

官報號外 昭和十一年五月二十日 貴族院議事速記第十號 競馬法中改正法律案 第一讀會

子爵加藤 泰通君 子爵裏松 友光君
 子爵土岐 章君 大島 健一君
 眞野 文二君 勝田 主計君
 坂西利八郎君 男爵飯田精太郎君
 男爵松岡 均平君 男爵高崎 弓彦君
 男爵伊江 朝助君 男爵矢吹 省三君
 菊池 恭三君 森 平兵衛君
 小倉 正恒君 下出 民義君
 三橋 彌君 金岡又左衛門君
 岩崎 清行君 松岡 潤吉君
 上野喜左衛門君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第五、競馬
 法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、
 第一讀會、島田農林大臣

競馬法中改正法律案
 右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
 院法第五十四條ニ依リ及送付候也
 昭和十一年五月十八日
 衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿
 競馬法中改正法律案
 第一條 本法ニ依ル競馬ハ日本競馬會ニ
 限リ之ヲ行フコトヲ得
 第二條 第一項ヲ左ノ如ク改ム
 競馬ノ開催ハ競馬場毎ニ年二回ヲ超ユ
 ルコトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ定ムル場
 合ニ限リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ年三回
 開催スルコトヲ得
 第四條 第一項中「第一條ノ法人」ヲ「日本

競馬會」ニ改ム
 第五條 第二項中「當該競馬ヲ開催スル第
 一條ノ法人」ヲ「日本競馬會」ニ改ム
 第六條 第一項中「第一條ノ法人」ヲ「日本
 競馬會」ニ改ム
 第八條 第一項中「百分ノ六以内」ヲ「百分
 ノ八以内」ニ、同條第二項中「前項」ヲ「前
 二項」ニ、同條第三項中「第一項」ヲ「第一
 項及第二項」ニ、「三分ノ二」ヲ「四分ノ三」
 ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加
 フ

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本競馬
 會ノ保有スル資金ガ其ノ保有スベキ準
 備資金ノ最高額ヲ超過スルトキハ其ノ
 超過額ヲ政府ニ納付セシムルコトヲ得
 第九條 日本競馬會ハ勝馬投票券ノ賣得
 金ノ額ニ對シ其ノ定ムル歩合ノ金額ヲ
 賣得歩合金トシテ收得スルコトヲ得但
 シ前條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ納付
 スベキ金額ト賣得歩合金額トノ合計ハ
 賣得金ノ額ノ百分ノ十五ヲ超ユルコト
 ヲ得ズ
 第十條 日本競馬會ハ法人トシ馬ノ改良
 増殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルヲ以テ目
 的トス
 日本競馬會ハ前項ノ目的ヲ達スル爲本
 法ニ依リ競馬ヲ行フノ外業務規則ノ定
 ムル所ニ依リ必要ナル事業ヲ行フコト
 ヲ得
 日本競馬會ハ全國ヲ通ジ一箇トシ主ク
 ル事務所ヲ東京市ニ置ク
 第十一條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ日

本競馬會ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ
 處理セシム
 第十二條 設立委員ハ業務規則ヲ作り主
 務大臣ニ日本競馬會設立ノ認可ヲ申請
 スベシ
 日本競馬會ハ前項ノ認可アリタル時成
 立ス
 第十三條 業務規則ニハ左ニ掲グル事項
 ヲ記載スベシ
 一 目的
 二 名稱
 三 事務所
 四 競馬場
 五 役員ニ關スル規定
 六 事業及其ノ執行ニ關スル規定
 七 資産及會計ニ關スル規定
 八 業務規則ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受
 クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
 第十四條 日本競馬會ハ其ノ成立ノ日ヨ
 リ三週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於
 テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 一 目的
 二 名稱
 三 事務所
 四 成立ノ年月日
 五 資産ノ總額
 六 理事長、副理事長、理事及監事ノ
 氏名及住所
 前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタル
 トキハ二週間以内ニ其ノ登記ヲ爲スコ
 トヲ要ス但シ前項第五號ニ掲グル事項

競馬會ニ改ム
 第五條 第二項中「當該競馬ヲ開催スル第
 一條ノ法人」ヲ「日本競馬會」ニ改ム
 第六條 第一項中「第一條ノ法人」ヲ「日本
 競馬會」ニ改ム
 第八條 第一項中「百分ノ六以内」ヲ「百分
 ノ八以内」ニ、同條第二項中「前項」ヲ「前
 二項」ニ、同條第三項中「第一項」ヲ「第一
 項及第二項」ニ、「三分ノ二」ヲ「四分ノ三」
 ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加
 フ
 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本競馬
 會ノ保有スル資金ガ其ノ保有スベキ準
 備資金ノ最高額ヲ超過スルトキハ其ノ
 超過額ヲ政府ニ納付セシムルコトヲ得
 第九條 日本競馬會ハ勝馬投票券ノ賣得
 金ノ額ニ對シ其ノ定ムル歩合ノ金額ヲ
 賣得歩合金トシテ收得スルコトヲ得但
 シ前條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ納付
 スベキ金額ト賣得歩合金額トノ合計ハ
 賣得金ノ額ノ百分ノ十五ヲ超ユルコト
 ヲ得ズ
 第十條 日本競馬會ハ法人トシ馬ノ改良
 増殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルヲ以テ目
 的トス
 日本競馬會ハ前項ノ目的ヲ達スル爲本
 法ニ依リ競馬ヲ行フノ外業務規則ノ定
 ムル所ニ依リ必要ナル事業ヲ行フコト
 ヲ得
 日本競馬會ハ全國ヲ通ジ一箇トシ主ク
 ル事務所ヲ東京市ニ置ク
 第十一條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ日
 本競馬會ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ
 處理セシム
 第十二條 設立委員ハ業務規則ヲ作り主
 務大臣ニ日本競馬會設立ノ認可ヲ申請
 スベシ
 日本競馬會ハ前項ノ認可アリタル時成
 立ス
 第十三條 業務規則ニハ左ニ掲グル事項
 ヲ記載スベシ
 一 目的
 二 名稱
 三 事務所
 四 競馬場
 五 役員ニ關スル規定
 六 事業及其ノ執行ニ關スル規定
 七 資産及會計ニ關スル規定
 八 業務規則ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受
 クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
 第十四條 日本競馬會ハ其ノ成立ノ日ヨ
 リ三週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於
 テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 一 目的
 二 名稱
 三 事務所
 四 成立ノ年月日
 五 資産ノ總額
 六 理事長、副理事長、理事及監事ノ
 氏名及住所
 前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタル
 トキハ二週間以内ニ其ノ登記ヲ爲スコ
 トヲ要ス但シ前項第五號ニ掲グル事項

ニ付テハ毎會計年度末日ノ現在ニ依リ會計年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

本法ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スベシ

第十五條 民法第四十四條、第四十五條

第二項第三項、第四十七條、第四十八條、第五十條、第五十四條、第五十五條、第五十七條、第六十八條第一項及第七十條乃至第八十三條並ニ非訟事件手續法第三十五條、第三十六條、第三十七條ノ二、第一百十七條、第一百十九條乃至第二百二十二條、第三百三十六條乃至第三百三十八條、第四百二十二條乃至第四百五十七條及第四百七十五條乃至第四百七十七條ノ規定ハ日本競馬會ニ之ヲ準用ス

但シ民法第四十五條第三項、第四十八條第一項及第七十七條中一週間トアルハ之ヲ二週間トス

第十六條 日本競馬會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

日本競馬會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

第十七條 日本競馬會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 理事長 一人
 - 副理事長 一人
 - 理事 若干人
 - 監事 若干人
 - 評議員 二十五人以内
- 第十八條 理事長ハ日本競馬會ヲ代表シ

其ノ事務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ業務規則ノ定ムル所ニ從ヒ日本競馬會ノ業務ヲ掌理ス

第十九條 理事長及副理事長ハ主務大臣之ヲ命ズ

理事及監事ハ業務規則ノ定ムル所ニ依リ評議員ニ於テ其ノ候補者ヲ選舉シ主務大臣之ヲ命ズ

第二十條 評議員ハ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ名譽職トシ前條第二項ノ規定ニ依リ選舉ヲ爲スノ外業務ノ執行ニ關スル重要事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ズルモノトス

第二十一條 日本競馬會競馬ヲ開催セントスルトキハ當該競馬ニ關スル事務ヲ執行セシムル爲メ命令ノ定ムル所ニ依リ開催執務委員ヲ置クコトヲ要ス

第二十二條 日本競馬會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ資金ヲ管理スベシ

第二十三條 主務大臣ハ日本競馬會ノ業務ヲ監督ス

第二十四條 日本競馬會ハ左ニ掲グル事項ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

- 一 借入金
- 二 債務ノ保證
- 三 不動産ノ取得又ハ處分
- 四 收支豫算

第二十五條 主務大臣ハ日本競馬會ニ對シ業務規則又ハ收支豫算ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 主務大臣ハ日本競馬會ニ對シ馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 主務大臣ハ日本競馬會又ハ其ノ役員若ハ開催執務委員ノ行爲ガ法令、之ニ基キテ爲ス處分若ハ業務規則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スル虞アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 競馬ノ停止
- 二 勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限
- 三 役員ノ解任
- 四 開催執務委員ノ職務執行ノ停止

第二十八條 日本競馬會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ノ報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第二十九條 主務大臣ハ特ニ日本競馬會監理官ヲ置キ日本競馬會ノ業務ヲ監視セシム

第三十條 日本競馬會監理官ハ何時ニテモ日本競馬會ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

日本競馬會監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本競馬會ニ命ジテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本競馬會監理官ハ日本競馬會ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ開陳スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ズ

第三十一條 日本競馬會ニ非ザルモノハ

日本競馬會又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第三十二條 主務大臣ハ本法ニ依リ競馬ニ關與スル調教師又ハ騎手ノ取締ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一 日本競馬會ニ非ズシテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二 第二十七條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

三 本法ニ依リ競馬ノ競走ニ關シ業トシテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者

四 第五條第二項ニ掲グル者ニシテ前號ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタルモノ

第三十四條 開催執務委員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二 第五條ノ規定ニ違反シタル者

三 第五條第二項ニ掲グル者ニシテ勝

馬投票券ヲ購買シタルモノ

四 第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ

テ拂戻金ヲ交付シタル者

五 第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタ

ルニ非ザル券面金額ノ勝馬投票券ヲ
發賣シタル者

六 第三十三條第一號乃至第三號ノ一
ニ規定スル行為ノ相手方ト爲リタル
者

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者

ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ
依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ購
買シタル者

二 第五條第一項ニ掲グル者ニシテ勝
馬投票券ヲ購買シタルモノ

三 勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタ
ル者

四 第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ
タル拂戻金ノ交付ヲ受ケタル者

第三十七條 日本競馬會ノ役員又ハ開催

執務委員ガ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受
シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ

二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為
ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サザルトキ

ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之
ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收
スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追
徴ス

第三十八條 前條第一項ニ掲グル者ニ對

シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者
ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰
金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキ

ハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十九條 日本競馬會ノ理事長、副理
專長、理事、監事若ハ開催執務委員又
ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ千圓以下
ノ過料ニ處ス

一 本法ニ於テ主務大臣ノ許可又ハ認
可ヲ受クベキ場合ニ其ノ許可又ハ認
可ヲ受ケザルトキ

二 第二十二條ノ規定ニ違反シタルト
キ

三 第二十五條、第二十六條又ハ第二
十七條第四號ノ規定ニ依ル主務大臣
ノ命令ニ違反シタルトキ

四 本法ニ基キテ爲ス登記ヲ爲スコト
ヲ怠リタルトキ

五 民法第八十二條第二項ノ規定ニ依
ル裁判所ノ検査ヲ妨ゲタルトキ

六 第二十八條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠
リ又ハ官廳ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ
若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

七 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規
定ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコ
トヲ怠リタルトキ

八 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ
定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ
不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第四十條 第三十一條ノ規定ニ違反シタ
ル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十一條 非訟事件手續法第二百六條
乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料
ニ之ヲ準用ス

附則

第四十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム

第四十三條 從前ノ第一條ノ法人ハ本法

施行後ト雖モ日本競馬會成立ノ日ヨリ
一年以内ハ競馬ヲ行フコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ命令
ノ定ムル所ニ依リ勝馬投票券發賣金ノ
額ノ百分ノ八以内ニ相當スル金額ヲ政
府ニ納付スルモノトス

第四十四條 本法ニ依リ日本競馬會ノ競
馬ヲ開催スル競馬場ノ數ハ當分ノ内十
一以内トス

第四十五條 從前ノ第一條ノ法人及社團
法人帝國競馬協會ハ日本競馬會成立ノ
日ヨリ一年ヲ經過シタルトキ解散ス

第四十六條 從前ノ第一條ノ法人及社團
法人帝國競馬協會ノ總會ノ決議ニ依ル
解散ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザ
レバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十七條 從前ノ第一條ノ法人及社團
法人帝國競馬協會解散シタル場合ニ於
テハ其ノ權利義務ハ日本競馬會之ヲ承
繼ス

前項ノ場合ニ於ケル解散ノ登記ハ解散
シタル法人ノ理事ノ申請ニ依リ之ヲ爲
ス

第四十八條 前條第一項ノ場合ニ於テ主
務大臣特別ノ事由アリト認ムル法人ニ
付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ權利
義務ノ一部ヲ保留セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ其ノ權利義務ノ一部
ヲ保留シタル法人ハ其ノ權利義務ニ付
民法ノ規定ニ依リ清算ヲ爲スコトヲ要
ス

第四十九條 日本競馬會第四十七條ノ規
定ニ依リ承繼シタル不動産ニ關スル權
利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テ
ハ其ノ登録稅ノ額ハ不動産ノ價格ノ千

分ノ三トス但シ登録稅法ノ規定ニ依リ
算出シタル稅額ガ本條ニ依リ算出シタ
ル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル
北海道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベ
キモノハ日本競馬會ニ對シ第四十七條
ノ規定ニ依リ承繼シタル不動産ニ關ス
ル權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スルコ
トヲ得ズ

第五十條 日本競馬會第四十七條ノ規定
ニ依リ從前ノ第一條ノ法人又ハ社團法
人帝國競馬協會ノ權利義務ヲ承繼シタ
ルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ且從前ノ
第一條ノ法人又ハ社團法人帝國競馬協
會ノ債權者ニシテ知レタルモノニ對シ
各別ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

日本競馬會ノ承繼シタル債務中辨濟期
ノ至ラザルモノアルトキハ日本競馬會
ハ其ノ債權者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保
ヲ供スルコトヲ要ス

第五十一條 日本競馬會設立當時ノ理事
及評議員ノ任期ニ付テハ第十九條第三
項及第二十條第三項ノ規定ニ拘ラズ各
五年以内又ハ三年以内ニ於テ業務規則
ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

(國務大臣島田俊雄君演壇ニ登ル)

○國務大臣(島田俊雄君) 競馬法中改正法
律案提案ノ理由ヲ說明致シマス、競馬法ガ
實施セラレマシテ以來十三年トナリマス、
其ノ間昭和四年及昭和六年ニ於テ一部ノ改
正ヲ見タノデアリマスルガ、其ノ後ニ於ケ
ル競馬實施ノ情況ニ鑑ミマスルニ、同法制
定ノ趣旨ヲ徹底致シマスルニハ、競馬制度
ニ付キマシテ之ニ適應スル改善刷新ヲ要ス
ルニ至ツタノデアリマス、仍テ昨年馬政調査
會ニ競馬ノ統制改善ニ關スル方策ニ付キ諮

官報號外 昭和十一年五月二十日 貴族院議事速記録第十號 競馬法中改正法律案 第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

問ヲ致シマシテ、調査會ニ於キマシテハ鋭意研究ノ結果、本年一月其ノ答申ヲ決議セラレタノデアリマス、本改正法律案ハ右ノ答申ニ基キマシテ立案致シタモノデアリマシテ、競馬施行機關ノ組織、競馬施行ニ關スル取締及政府納付金等ノ事項ニ付キマシテ、必要ナル改正ヲ加ヘタノデアリマシテ、以テ馬政上ニ於ケル競馬ノ使命達成ニ遺憾ナキヲ期セムトスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 質疑ノ通告ガゴザイマス、丸山鶴吉君

(丸山鶴吉君演壇ニ登ル)

○丸山鶴吉君 只今上程サレマシタ競馬法中改正法律案ニ關シマシテ、農林大臣竝ニ内務大臣ニ御質疑ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、本改正法律案ハ只今農林大臣ノ御説明ニナリマシタヤウニ、競馬ノ施行ノ機關及競馬施行ノ取締等ニ付テ、可ナリ重大ナル改正ヲ行ハレルモノデアリマス、即チ日本競馬協會ヲ創設サレマシテ、總テノ競馬ノ施行ヲ競馬協會ノ獨占ニサレルコトニナルノデアリマス、可ナリ重大ナル改正案デハアリマスガ、競馬施行ノコトニ關シマシテハ本員ハ全ク素人デアリマシテ、其ノ問題ニ付テ觸レルノデハアリマセス、唯改正法律案中第八條ニ關スル問題ニ關シマシテ、一應農林大臣ノ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス、其ノ第八條ト申シマスノハ勝馬投票ヲ行ヒマシタ結果トシテ、競馬ノ施行者ガ取得致シマス賣上金ノ金額ノ百分ノ六ヲ、從來ハ政府ニ公納ヲ致シテ居ッタノデアリマスガ、今回ノ改正案ニ依リマシテ其ノ賣上金額ノ百分ノ八ヲ政府ニ公納ス

ルコトニナッタノデアリマス、即チ競馬ノ利益金ノ政府ニ公納スル額ガ、此ノ際増額ヲサレタコトニナルノデアリマス、此ノ事ニ關シテモ私ハ別ニ異論ヲ持ツテ居ル者デアリマセス、唯其ノ第三項ニ於キマシテ從來ノ規定ヲ一應讀讀ヲ致シタイト思フノデアリマスガ、第一項ノ規定ニ依リ納付金ノ額ニ相當スル金額ハ馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル經費竝ニ社會事業ノ爲必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要ス、馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル經費ニ充ツル金額ハ納付金ノ額ニ相當スル金額ノ三分ノ二ヲ下ルコトヲ得ズ、此ノ規定ニ對シテ今回ノ改正ガ企テラレマシテ、其ノ三分ノ二ヲ四分ノ三ニ改メラレルコトニナッタノデアリマス、御承知デモゴザイマセウト思ヒマスガ、一應此ノ點ヲ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、競馬法ガ昭和六年ニ改正サレマシタ時ニ、初メテ此ノ第八條ノ規定ノ第三項ガ加ヘラレマシテ、競馬ニ依ッテ政府ニ納付スル金額ノ三分ノ二ハ即チ馬匹ノ改良、馬事思想ノ普及ノ爲ニ使用スルノデアアル、残りノ三分ノ一ハ社會事業ニ支出スルト云フ趣旨ニ依ッテ改正ヲサレタノデアリマス、其ノ額ノ率ガ今回ノ改正ニ依リマシテ政府ニ納付スル金額ハ増額致シマスガ、其ノ中ノ四分ノ三ハ馬ノ改良及馬事思想ノ普及ニ使ヒ、サウシテ残り四分ノ一ガ社會事業ニ充テラレルト云フコトニナッタノデアリマシテ、此ノ改正ハ極メテ重大ナル改正デアルト考ヘルノデアリマス、一應此ノ席ニ於テ農林大臣ノ御意見ヲ承ラナケレバナライコトニナッタノデアリマス、即チ從來此ノ競馬ノ政府納付金ノ中カラ社會事業ニ使ハレル所ノ金額ノ率ガ、此ノ規定ニ

依ッテ低下サレルト云フコトニナルノデアリマス、是ハ此ノ疲弊困憊ノ時ニ當リマシテ、益々救濟ヲ要スル人ノ多イ時節ニ、此ノ社會事業ニ使ハレル金ノ率ガ低下サレルト云フコトハ由々シキ事態デアリマシテ、其ノ及ボス影響モ極メテ重大デアルコトヲ考ヘマスガ故ニ、其ノ何故ニ此ノ際ニ於テ率ヲ下ゲラレタカト云フコトニ付テ、農林大臣ノ明確ナル御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス、御承知ノ通り昭和六年此ノ競馬法ガ改正ヲサレマシテ、政府納付金ノ一部分ガ社會事業ニ使ハレルコトニナリマシタ主タル動機ハ、昭和四年救護法ガ兩院ヲ通過シテ法律トナリマシタケレドモ、其ノ救護法ヲ實施致シマスル財源ノ點ニ於テ、政府ハ非常ニ苦慮サレマシタ、サウシテ此ノ競馬法改正ニ依リマシテ一部分ノ財源ヲ此ノ競馬ノ公納金カラ得ルコトニ依ッテ、初メテ昭和七年ノ一月一日カラ救護法ハ實施サレルコトニナッタノデアリマス、御承知ノ通り救護法ハ六十五歳以上ノ老人、十三歳以下ノ子供或ハ不具癱疾ニ因リ、或ハ疾病傷痍ニ因リ、或ハ妊娠等ニ因リ、非常ニ困窮ヲシテ居ル人デアリ、而モ寄ルベナキ、貧困ニシテ生活ヲ維持スルコトノ出來ナイ者ニ國家ガ救護ヲスルト云フ制度デアリマス、此ノ救護法ノ實施ハ我が國ノ社會施設ト致シマシテ、最モ重大ナル關係ヲ持ツ大キナ施設デアルノデアリマス、其ノ救護法ガ昭和四年ニ通過シテ居リナガラ、財源ノ關係ガ實施ガ出來マセスト云フコトデ、全國舉ゲテ速カニ此ノ法律ノ施行ヲ要望致シマシテ、全國ノ方面委員諸君ガ熱烈ナル祈願ヲ込メテ、連年猛烈ナル運動ヲ致シマシタコトハ、諸君ノ記憶ニ尙新ナルコトデア

ト私ハ信ズルノデアリマス、次ニ競馬法ノ改正ノ結果ニ依リマシテ、政府納付金ノ一部分ガ此ノ財源ニ充テラレルト云フコトニナリマシテ、初メテ此ノ貴イ意義ノアル救護法ガ實施ヲサレルコトニナッタノデアリマス、此ノ救護法ノ改正當時ニ色々論ゼラレマシタ點ヲ顧ミテ見マスルト、當時議會ニ提出サレマシタ時ニ、高橋球也君ヨリ當時ノ町田農林大臣ニ此ノ社會事業ニ此ノ費用ヲ支出スルコトニ付テ御質問ガアリマシタ御答辯ニ、「高橋君ノ御承知ノ牧野ノ荒廢シテ居ル現狀ニ付キマシテハ何トカ國家ガ之ヲ獎勵補助スルコトノ必要モ感ジテ居ッタノデ、相當ノ調査ガ進ンデ居リマシタニ際シテ、社會事業ノ最モ急ナルモノノ一ツトシテ救護法ノ實施ヲ急グコトガ生ジタノデアリマス、申ス迄モナク歐米各國ニ於キマシテハ競馬ノ收入ノ或一部分ヲ慈善事業、社會事業等ニ投ズルコトハ殆ド世界ノ通念ト相成ッテ居リマシテ、先年此ノ改正ヲ致シマシタ時モ、當時ノ當局者ハ將來出來ルナラバ此一部分ヲ割イテ社會事業、慈善事業ニ用ヒルト云フ大體ノ考ヲ持ッテ居リマシタコトハ、私共同感デアリマシテ、恐ラク斯様ナ種類ノ收入ノ一部分ヲ社會事業ニ投ズルト云フコトハ、恐ラク異存ノナイコトト思ヒマス、斯ウ町田農林大臣ハ當時御答ニナッテ居リマス、即チ競馬法カラ得ル收入ノ如キハ、社會事業、斯ノ如キ寄ルベナク年老イ、或ハ幼年ニシテ寄ルベナイ人間ヲ助ケル費用ニ投ズベキモノデアルト云フコトヲ、當時ノ農林大臣ハ、競馬法ノ改正ノ際ニ御説明ニナッテ居ルノデアリマス、又其ノ委員會ニ於キマシテ、或委員ヨリ外國ニ於テ競馬ノ收入ヲ社會事業ニ使フト云フノハ、馬匹

改良其ノ他ノ方ガ總テ完全ニ行届イタ後ニ、其ノ殘レルモノヲ社會事業ニ使ツタノデハナイカト云フ趣旨ヲ質問サレマシタ時ニ、同ジク町田農林大臣ハ御答ニナリマシテ、「其ノ點ハ相當調ベテ見マシタガ、最早計畫ガ立ツテ、馬事振興ニ對シテ斯様ナ經費ガ多ク要ラナイト云フ見据ガ付キマシテ、初メテ社會事業ニ投ジタノデハナイヤウデアリマスカラ、大體競馬ノヤウナモノカラ得マズルモトノ大體ノ觀念カラ、其ノ一部ヲ貧困救助ノ意味ニ於テ社會事業ニ使フト、斯ウ云フ考デアリマス、斯ウ當時ノ農林大臣ハ御答ニナツテ居リマス、此ノ競馬法ヲ改正ヲ致シマシテ、社會事業ニ其ノ收入ノ一部ヲ出スト云フ此ノ思想ニ付キマシテハ、現島田農林大臣ハ同様ニ、前町田農林大臣ト同様ニ御考ヲ御持チニナツテ居ルノデアルカドウカト云フコトヲ、第一點トシテ御質問ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、若シ島田農林大臣ガ前町田農林大臣ト同様ニ、斯クノ如キ競馬ニ依ツテ得ル收入ノ一部ハ、貧困救助ノ爲ニ社會事業ニ投ズベキモノナリト云フコトヲ確信サレテオイデニナルト致シマスナラバ、此ノ競馬法ノ今回ノ改正ノ際ニ當ツテ、其ノ社會事業ニ投ズベキ金ト、馬匹改良ニ投ズベキ金トノ比率ヲ、殊ニ今回低下サレマシタ所ノ理由ヲ承リタイト思フノデアリマス、御承知ノ通り連年ノ世界の不況ノ影響ヲ受ケマシテ、農山漁村ノ疲弊困憊ハ其ノ極ニ達シテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、折角救護法ガ實施サレマシテモ、多數ノ貧困者ニシテ尙救護ノ手ノ届カナイモノガ相當數アルノデアリマス、例ヘバ内務省デ昭和九年

ノ調ベニ依リマス、全國デ只今申上ゲマシタヤウナ六十五歳以上十三歳以下、疾病傷痍者、不具癡疾者、妊産婦、其ノ他貧困ニシテ自ラ生活スルコトノ出來ナイ者ノ數ガ、三十八萬四千五百六十八人アルト云フコトニナツテ居リマス、然ルニ昭和九年ハ財源ノ關係其ノ他ニ依リマシテ救助ヲ受ケマシタ者ハ、十二萬五千七百五十三人、是ダケニ過ギナイノデアリマシテ、「パーセント」ヲ取ツテ見マズレバ、要救護者ノ僅カニ三二・七「パーセント」ダケガ救護法ニ依テ救助ヲ受ケテ居ルト云フ關係ニナツテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ救護ヲ要スル人ハ、此ノ時勢ニ連レマシテ非常ニ増加ヲ致シテ居ル際デアリマシテ、而モ財源ノ關係ニ依リマシテ僅カニ三二・七「パーセント」シカ救助ヲ受ケテ居ラナイ現状デアルト致シマノレバ、折角實施サレマシタ救護法モ、マダ徹底的ニ多數ノ貧困者ヲ救助ヲシテ居ルト云フ實情デハナイノデアリマス、益、此ノ救護法實施ニ要スル所ノ費用ハ、モウ緊切ナルモノガアルノデアリマス、ソレデアリマスカラ全國ノ方面委員大會、全國ノ四萬三千ノ方面委員諸君ガ是等ノ貧困者ノ救濟ノ爲ニ、何等ノ報酬ヲ得ナイデ實ニ熱心ニ努力ヲシテ下スツテ居リマス、年々此ノ貧困者ヲ救濟スル事件デ、方面委員ノ御取扱ニナリマス所ノ數ハ、年々四百萬件、五百萬件ヲ越シテ居ルノデアリマシテ、サウシテ要救護者ハ非常ニ多イノデアリマスカラ、方面委員諸君ノ大會等ニ於キマシテモ、ドウカ政府ハ救護法實施ノ費用ヲ速カニ増加シテ呉レト云フ陳情ナリ請願ナリ常ニ政府ニ致シテ居ルノデアリマス、昨年ノ十月全國社會事業大會

ノ東京ニ開催サレマシタ時、畏クモ高松宮殿下ヲ總裁ニ仰ギ奉リマシテ、全國カラ三千餘名ノ社會事業家ガ集リマシテ社會事業大會ヲ開催致シマシタ際モ、強ク論ゼラレマシタ問題ハ、救護法ガ折角實施サレマシテモ、財源ノ關係ニ依ツテ其ノ徹底ヲ見ルコトガ出來ナイト云フコトヲ遺憾トシテ、總會ノ決議ニ依リマシテ、政府ニ救護法實施ニ使ヒマスル所ノ費用ノ増額ヲ數額ヲ致シテ居ルヤウナ際デアリマス、斯ウ云フ時節ニ當リマシテ競馬法ガ改正ヲセラレ、競馬ニ依ツテ政府ノ納付金ガ増加ヲ致スコトニナツタノデアリマス、サウ致シマスレバ從來通り同ジ比率デ此ノ社會事業ノ方面ニ關シマシテモ、其ノ均霑ヲ致スコト云フコトガ、此ノ時節ニ當リマシテハ最モ緊要ナコトデハナカラウカト思フノデアリマス、勿論馬匹ノ改良、馬事思想ノ普及ト云フコトモ國家ト致シマシテ重要ナコトデアリマス、又之ニ經費ノ足リナイデ種々御苦心爲サツテオイデニナリマスコトモ存ジテ居リマス、ソレガ故ニ競馬ニ依ル政府納付金ヲ増加爲サレマシテ、其ノ方面ニモ一段ト御力ヲ御盡シニナル所ノ御覺悟ノ程ハ能ク存ジテ居ルノデアリマス、ソレデ又ソレ以上、殊ニ寄ルベナク、頼ム所ガナイ、貧困ニシテ生活ヲ支ヘ得ルコトノ出來ナイ多數ノ窮民諸君ガ居ルノデアリマスカラ、折角競馬法ノ改正ニ依リマシテ國庫ノ收入ガ殖エマシタラバ、從來同ジヤウナ率デ此ノ救護法實施ノ方ニ之ヲ御割キニナルコトガ當然デハナカラウカト、斯ウ考ヘテ居リマス、更ニ此ノ規定ニ依リマス、先程朗讀ヲ致シマシタヤウニ、馬匹ノ改良及馬事思想ノ普及ニ使フ金ハ「全額ノ三分ノ二ヲ下ルコト

ヲ得ズ」ト書イテアルノデアリマスカラ、必要ガアルナラバ、三分ノ二以上ヲ馬匹ノ改良及馬事思想ノ普及ニ使ヒ得ラレル規定ニナツテ居ルノデアリマス、融通ガ利ク規定ニナツテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ若シ馬匹ノ改良ノ方ガ非常ニ急ヲ要スルナラバ、今迄ノ規定ノ儘ニ置キマシテモ、三分ノ二以上ヲ御使ヒニナルコトハ出來ナイコトハナイ、法律ノ建前カラハサウナツテ居ルノデアリマス、然ルニ之ヲ殊更「四分ノ三ヲ下ルコトヲ得ズ」ト此ノ際改正サレマスコトハ、如何ニモ馬匹改良ガ重クテ、此ノ社會貧困大衆ヲ救ハナケレバナラスト云フ救護法ノ實施ニ關スル方ハ、此ノ時勢ニ於キマシテ非常ニ輕ク取扱フコトヲ世間ニ發表スル結果ニナルノデアリマス、是ガ由由シキ私ハ思想上其ノ他ニ及ボス影響ガ重大デアルト思フ、若シドウシテモ馬匹ノ改良、馬事思想ノ普及ト云フコトガ緊切デアルナラバ、現在ノ規定ノ儘デモ「三分ノ二ヲ下ルコトヲ得ズ」トアリマスカラ、ソレ以上御使ヒニナルコトガ出來得ルノニ、殊更此ノ際其ノ率ヲ改メテ、社會事業ニハ其ノ率ヲ下ゲルノダト云フコトヲ此ノ改正案ニ於テ御表明ニナリマスコトハ、此ノ時代ニ取リマシテ如何ナル影響ヲ及ボスカト云フコトヲ考ヘマス、慎重ナル態度デ御考ニナラナケレバナラナカク點デハナカラウカト私ハ信ズルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ農林大臣ノ御所見ヲ承リタイト思フノデアリマス、此ノ競馬法ハ農林省所管デアリマスガ、救護法實施ハ内務省ノ所管デアリマス、内務大臣ニ御伺ヲ致シタイノデアリマスガ、内務大臣ハ、此ノ競馬法實施ニ當リマシテ、社會事業ニ廻ス

金ノ率方下リマシテモ、此ノ改正案ニ御同意ニナリ、之ヲ政府案トシテ提出サレルコトニナリマシク、付キマシテハ、私共ドウシテモ了解ニ苦シムノデアリマス、内務大臣トシテ此ノ要救護ノ人ガ斯クノ如ク非常ニ殖エテ參リ、而モ經費ノ關係ヲ救護ヲ受クルコトガ出來ナイデ苦シンデ居ル者ガ六十八「パーセント」モアルノダ、斯ウ云フ事實ヲ御覽ニナレバ、ソレハ全體カラ申セバ大シク財源デハナイカ知リマセヌケレドモ、少シノ財源デモ内務大臣トシテハ之ヲ御逃ガシニナル譯ニハ行カナイノデハナカラウカト思フノデアリマスガ、如何ナル所見ニ依リマシテ、此ノ四分ノ三ニ率ヲ低下スルコトヲ御認メニナリ、サウシテ是ガ政府案トナツテ提出サレマシタカト云フコトヲ、一應内務大臣ニ御伺ヒシタイト思フノデアリマス、更ニ之ニ關聯ヲ致シマシテ、内務大臣ニ御伺ヲ申シタイノデアリマスガ、救護法實施ノ中デ、私共モ非常ニ遺憾ニ思フテ居リマスコトハ、病氣ニ罹ツテサウシテ此ノ醫療ノ途ガ十分ニ達セラレナイコトデアリマス、醫療ノ根本問題ニ付キマシテハ、私共別ニ意見ガアリマス、色々社會事業ノ對象トナリマス多クノ貧困者ノ原因ヲ尋ネテ見マスルト、疾病ノ原因スルモノガ相當アリマス、サウシテ此ノ病氣ヲ治療致シマスコトガ、日本ノ現在ノ醫療制度ニ於キマシテハ、非常ニ費用ガ掛リマシテ、病氣ヲ初期ノ間ニ治療ヲ致シマス云フヤウナコトガ困難ナル爲ニ、貧困ノ状態ニ陥ル状態デアアルノデアリマス、勿論救護法ニハ疾病傷痍者ヲ救護スル途ハ付イテ居リマスケレドモ、此ノ點ハ極メテ遺憾ナガラ、サ、ヤカナ救護ノ手シカ仲ビテ居リマセヌ、

畏多クモ毎年年末ニ當リマシテ 皇后陛下ヨリ御手許金ヲ御下賜ニナリ、年末巡廻救療等ガ行ハレマシテ、社會事業ニ於キマシテモ總動員ヲシテ、是等貧困者ノ爲ニ救療ノ手ヲ伸バシテ居ルノデアリマス、サウ云フ意味カラ考ヘテ見マシテモ、此ノ醫療救護ト云フコトガ、貧民ノ救護ノ上ニ最モ大切ナコトデアリマス、デアリマスカラ今ヤ既ニ救護法ノ中カラ醫療救護ガ特別ノモノニシマシテ、醫療救護法ヲ制定ヲシテ、醫療救護ノ徹底ヲ圖レト云フ議論ガ朝野ノ間ニヤカマシイノデアリマス、屢、請願、建議トナリマシテ内務省ノ御手許ニモ届イテ居ルコトト思フノデアリマス、然ルニ之ヲ實施致シマスノニモ相當ノ費用ヲ要スルノデアリマス、折角競馬ニ依ツテ與ヘラレル所ノ財源ヲ、斯クシテ馬匹改良ノ方面ニ多額ヲ費シ、社會事業ニ對シマシテハ率ヲ低下スルコトニナリマスコトハ、如何ニモ此ノ際遺憾千萬ナコトデアアルト思フノデアリマス、馬ガ大切デアツテ人ガ大切デナイト云フ結果ヲ此ノ改正案ニ於テ表明スルコトヲ、如何ニモ遺憾ト存ズルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ農林大臣及内務大臣ノ御所見ヲ承リタイト思フノデアリマス

本改正案ハ第二次ノ馬政計畫實行ニ伴ヒマシテ馬政調査會ニ諮問ヲ致シマシタ、其ノ答申ニ基イテ提案ヲ致シタモノデアリマシテ、大體馬政調査會ノ諮問ニ答申ノ各箇條ヲ、法文化シタト云フヤウナ事情ニナツテ居ルノデアリマシテ、而シテ只今ノ第八條ノ改正ノ點ニ付キマシテハ、是亦同調査會ノ答申ノ第三トシテ爲サレマシタ、政府納付金ニ關スル事項トシテ答申サレタ其ノ答申ニ基イタノデアリマシテ、御參考ノ爲ニ其ノ一項ヲ則讀ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、政府納付金ニ關スル事項、政府納付金ハ勝馬投票券ノ賣得金額ノ百分ノ八以内ニ相當スル金額トスルコト、政府納付金ノ額ニ相當スル金額ノ四分ノ三以上ハ馬ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要スルモノトスルコト、斯様ニナツテ居ルノデアリマシテ、然ルニ此ノ點ニ付キマシテ現行法ニアル所ノ三分ノ二トアルノヲ四分ノ三ニ減額スルコト云フノハドウデアアルカト云フ御尋デアリマスガ、今回ノ改正ニ依リマシテ、即チ此ノ答申案ニ基イテ提案ヲ致シマシタ改正ニ依リマシテ、納付金ノ額ガ只今申上ゲマシタヤウニ増額ヲスルコトニナツタノデアリマス、從ヒマシテ政府ノ收入ガ此ノ規定ニ依リマシテ増額ヲ致シマス、其ノ増額ノ結果ト致シマシテ是迄ノ三分ノ二ノ率ヲ四分ノ三ト致シマシテモ、社會事業等ニ使用スベキ金額ニ付テハ從來ト變リガナイノデアリマス、殊ニ救護法ノ實施ニ伴ヒマシテ、内務省トノ關係ニ於テ競馬ノ收入カラ社會事業ニ支出スル所ノ金ハ、從來百萬圓ヲ下ラナイ、斯様ナコトニナツテ居ルノデアリマシテ、此ノ趣意カラ現在ノ政府ノ豫定ノ數字ヲ申シマスル

ト云フト、昭和十年度ニ於キマシテ、即チ三分ノ一ノ制度ニ於キマシテ、此ノ納付金ノ豫算ハ五百二十六萬餘圓デアリマシテ、此ノ三分ノ一ハ百七十五萬餘圓ニナツテ居リマス、春競馬ハ此ノ改正法ニ當嵌メルコトガ出來ナカッタ爲ニ、春競馬ノ收入ハ増額致シテ居リマセヌカラシテ、昭和十一年度ノ納付金ノ總額ハ豫定ヨリハ少シク減ツテ居リマスケレドモ、改正法ヲ實施致シマシテ、即チ四分ノ一ノ關係ヲ見テ行キマスト云フト、昭和十一年度ノ此ノ納付金ノ豫定額ハ六百五十八萬餘圓ニナツテ居リマス、從ヒマシテ此ノ四分ノ一ハ百六十四萬餘圓ニナツテ居リマス、之ヲ春秋ノ競馬ニ改正法ヲ適用致シマシタ政府ノ納付金ノ豫算額ハ七百二十二萬餘圓、即チ昭和十二年度以降ニ於キマシテハ七百二十二萬餘圓ノ收入ガアルコトニ豫算ヲ致シテ居リマスノデ、其ノ四分ノ一ハ百八十萬餘圓ニナツテ居リマス、内務省トノ關係ニ於テ此ノ社會事業ニ充ツベキ財源ヲ百萬圓ト致シマスレバ、其ノ間ニ尙相當ノ餘裕ガアル譯デアリマス、馬事ノ方面ニ使ヒマスル此ノ二次計畫ノ關係カラシテ、金額ハ相當多額ヲ要スル次第デアリマシテ、是ハ國防上ニモ關係ナル事柄デアリマシテ、馬政調査會、此ノ馬ニ關係ノ方面ニ於キマシテハ、相當大キナ規模ニ依ツテ實行ヲスルコトヲ要求サレテ居ル次第デアリマシテ、ソレ等ノ關係カラシテ納付金ノ率ヲ上ゲルコトニナツタノデアリマスガ、其ノ關係上只今御質問ノヤウニ四分ノ一ト致シマシテ、四分ノ一ニ相當スルモノノ中カラ社會事業ニ百萬圓ヲ割キマシテモ、尙其ノ餘裕ニ於テハ相當ナモノガアル豫算デアリマシテ、又此

○國務大臣(島田俊雄君) 競馬法改正案第八條ノ點ニ關シマシテ、丸山君ノ御尋ニ御答ヲ致シマス、御質問ノ第二ノ點カラ先キニ御答ヘ致シタイト思ヒマスガ、競馬ニ依ル收入ノ一部ヲ社會事業ノ爲ニ投スル、此ノ點ニ付キマシテ政府ノ考ヘ方ニ付テノ御尋デアツタヤウニ考ヘマスガ、是ハ全然丸山君ノ御述べニナリマシタ通りニ考ヘテ居リマス、先キニ提案ノ際ニ申上ゲマシタ如ク、

(國務大臣島田俊雄君演壇ニ登ル)

ノ事ニ付キマシテハ將來ト雖モ百萬圓ヲ下ルヤウナコトハアルマイ、斯様ナ考ヲ以テ内務省トモ折衝ヲ致シテ次第アリマシテ、内務省ニ於キマシテモ此ノ率ヲ下ゲルト云フ、形ニ於テ只今丸山君ノ御質問ニ現レタヤウナ嫌ヒノアルト云フコトハ認メマスケレドモ、内容ニ於テハ變リガナイ、又其ノ思想ニ於キマシテモ、競馬ノ收入ノ一部ヲ救護事業、社會事業ニ向ケルト云フコトノ考ヘ方ニ於テハ何等變リガナイト云フコトデ、内務省ニ於テモ同意ヲセラレタヤウナ次第デアリマス、此ノ點ヲ何卒御了承願ヒタイト思ヒマス

○議長(公爵近衛文麿君) 政務次官

(政府委員子爵鍋島直綱君演壇ニ登ル)

○政府委員(子爵鍋島直綱君) 只今ノ御質問ノ中、内務省ニ關係アル部分ヲ御答辯申上

ゲマス、今農林大臣ヨリ御話ノアリマシタ此ノ三分ノ一ガ、社會事業ニ今マデ行ッテ居ッタクガ今度ハ四分ノ一ニナル、減タノデヤナイカト云フコトデアリマスケレドモ、是ハ其ノ金額ニ於テ別ニ變ッテ居ラナイノデゴザイマス、競馬ノ方カラ納付致シマス金ノ中カラ片方ハ協會ノ方ニ、片方ハ政府ノ方ニ、其ノ政府ノ納付金ノ中ノ今マデ三分ノ二ガ馬政ニ使ハレテ居リマシタノガ、今度四分ノ三ニナツタ、是ハ今マデ協會ノ方ニ行ッテ居ッタク金ガ減リマシテ、サウシテ馬政ノ方ニ殖エタト云フ形デ別ニ、百分比ニ致シマス云フト百分ノ十五ト云フモノガ競馬ノ方カラ上リマス、其ノ中カラ百分ノ二ガ内務省ノ此ノ社會事業ニ使ハレテ居ッタクノデアリマスガ、同ジク今度モ百分ノ二ト云フ數ニハ變リガナイノデアリマス、ソレデ内務省ノ方ト致シマシテモ農林省カラ

交渉ガアリマシタ時ニ、別ニ其ノ實質ニ於テ、金額ニ於テ變リガナイカラト云フノデ、先ヅ之ヲ承諾サレタト思ッテ居リマス、ソレニ此ノ救護法ニ付キマシテハ今度ノ追加豫算ニハ尙五十萬圓ノ増額ヲ計上シテアルノデアリマス、其ノ方デ以テ尙今迄ヨリモ徹底シタ仕事ヲシタイ、研究調査ヲ進メタイト云フコトヲ考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレカラ警察救護ノコトニ付キマシテノ御話ガアリマシタノデゴザイマスガ、此ノ事ニ付キマシテハ先年來相當ニ檢討サレテ居ルコトノヤウデアリマスガ、大體相當ニ是ニハ金ガ掛ル問題デアリマスノデ、マダ之ヲ提案スル迄ニハ至ッテ居ラナイノデアリマス、今後之ニ對シテハ相當ニ努力シタイト考ヘテ居ルノデゴザイマス、ソレダケ御答ヘ申上ゲマス

○丸山鶴吉君 簡單デゴザイマスカラ、自

席カラ御許シテ願ヒマス……只今農林大臣竝ニ内務政務次官ノ御答辯ヲ拜聽致シマシテ、御話ノ通りニ、政府ノ納付金ガ増加ヲ致スノデアリマスカラ、四分ノ一ニナリマシテモ、其ノ金額ガ或ハ殖エテモ下ラナイコトハ、私能ク存ジテ居リマスケレドモ、競馬ノ政府納付金ト云フモノハ、競馬ノ段段發達擴張ニ依リマシテ非常ニ増加スル傾向ヲ持ッテ居ルモノデアリマス、然ルニ其ノ増加スベキ政府ノ收入ヲ、社會事業ト、馬匹ノ改良トニ使フ、其ノ率ヲ此ノ際低下ヲ致シマスコトハ、誠ニ社會事業ノ立場トシテ非常ニ反對ヲシナケレバナラス點デアリマシテ、其ノ點ニ付テ御意見ヲ承クノデアリマスガ、此ノ席デ委曲ヲ盡シテ居ルコトハ、議事ノ進行ニモ妨ゲニナリマスカラ他ノ機會ニ讓リマシテ、一應是デ質問ヲ打切

ルコトニ致シタイト思ヒマス

○議長(公爵近衛文麿君) 土方君

(土方君演壇ニ登ル)

○土方君 我ハ競馬法中改正法律案ニ付キマシテ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、質問ノ趣旨ヲ明カニスルダケニ止メ、此ノ際ハ意見ヲ述ベルコトハ差控ヘル積リデアリマス、日露戰後、成金ナドガ頻出シマシテ、非常ニ實業界ガ繁昌シタ時ニ、所謂馬券附ノ競馬ノ盛ニ行ハレマシタコトハ、當時ノ民心ガ輕佻浮薄、放縱ニ流レテ居ッタクコトヲ明カニ示スノデアリマス、多分此ノ事ヲ御軫念アラセラレタ結果ダラウト思ヒマスガ、明治四十一年十月十三日ニ、明治天皇ヨリ戊申詔書ヲ拜スルヤウニナリマシタ、其ノ一部分ヲ謹ンデ捧讀致シマス、「戰後日尙淺ク庶政益、更張ヲ要ス宜ク上下心ヲ一ニシテ忠實業ニ服シ勤儉產ヲ治メ惟レ信惟レ義醇厚俗ヲ成シ華ヲ去リ實ニ就キ荒忘相誠メ自彊息マサルヘシ」此ノ部分ダケニ止メマス、此ノ詔書ヲ拜シマシテ、其ノ後、時ノ政府ハ所謂馬券附ノ競馬ト云フモノ、馬券發賣ヲ禁止シタノデアリマス、然ルニ 明治天皇ガ御崩御ニナリマシテ十年餘モ經テマスト、第何議會デアリマシタカ、大正十一年ノ暮カラ春ニ跨ル議會ニ、時ノ政府ハ馬券ノ發賣ヲ許サナケレバ競馬ガ盛ニ行ハレナイ、競馬ガ盛ニ行ハレナケレバ馬匹ノ改良ガ出來ナイト云フノデ、馬券ト云フノガ如何ニ卑賤ナ言葉デアリマスカラ、名前ダケハ勝馬投票券ト云フ尤モラシイ名前ニ變ヘマシテ、之ヲ許ス提案ヲサレタノデアリマス、當時私ハ本院ニ議席ヲ與ヘラレテ間モナイ時デアリマシタケレドモ、如何ニモ民心ニ害ノアルモノト思ヒマシタカラ、默

シ難ク反對シマシタケレドモ、反對シ甲斐ガナク其ノ法律ガ行ハレマシテ今日ニ至ッテ居ル、其ノ大正十二年ノ暮ニハマダ記憶ニ新シイ關東地方ノ大震火災ガゴザイマシテ、一時此ノ震火災ノ打撃ヲ受ケタ地方ノ民心ガ混亂狀態ニ陥リ、殆ド放心ノ有様デアッタノデアリマス、之ニ付テハ私自身ガ自宅ヲ防火スルニ付テ體驗シタコトガアリマス、官吏モ一般人民モ消防隊モ殆ド放心ノ態デ居ッテ、斯程マデニ全都ヲ燒カナクテモ濟ンダヤウニ思ッテ居リマスケレドモ、コンナ話ハ此處ニハシマセヌ、此ノ時ニハ、大正十二年ノ九月ノ十七日ニ關東大震災ニ付テノ勅語ヲ、大正天皇カラ拜シテ居リマス、是ハ帝都復興ニ付テ民心ヲ激勵シ賜ッタクコトデアリマスガ、同ジ年ノ十二年ノ十一月十日ニハ、國民精神作興ニ關スル詔書ヲ拜シテ居リマス、謹ンデ其ノ一部分ヲ捧讀致シマス、是ハ競馬法ガ其ノ春通過シタ後デアリマス、「朕惟フニ國家興隆ノ本ハ國民精神ノ剛健ニ在リ之ヲ涵養シ之ヲ振作シテ以テ國本ヲ固クセサルヘカラス是ヲ以テ先帝意ヲ教育ニ留メサセラレ國體ニ基キ淵源ニ溯リ皇祖皇宗ノ遺訓ヲ揭ケテ其ノ大綱ヲ昭示シタマヒ後又臣民ニ詔シテ忠實勤儉ヲ勸メ信義ノ訓ヲ申ネテ荒怠ノ誠ヲ垂レタマヘリ」中ヲ略シマスガ、其ノ先キノ方ニ行キマス、「輓近學術益、開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル」實ニ恐入ッテ御言葉デアリマス、今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル況ヤ今次ノ災禍甚ク大ニシテ文化ノ紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神ニ待ツヤヤ

是レ實ニ上下協贊振作更張ノ時ナリ振作更張ノ道ハ他ナシ先帝ノ聖訓ニ格遵シテ其ノ實效ヲ擧クルニ在ルノミ宜ク教育ノ淵源ヲ崇ヒテ智徳ノ竝進ヲ努メ綱紀ヲ肅正シ風俗ヲ匡勵シ浮華放縱ヲ斥ケテ質實剛健ニ趣キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ人倫ヲ明ニシテ親和ヲ致シ公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ責任ヲ重シ節制ヲ尙ヒ忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ博愛共存ノ誼ヲ篤クシ入りテハ恭儉勤敏業ニ服シ産ヲ治メ出テテハ己ノ利害ニ偏セズシテ力ヲ公益世務ニ竭シ云々之ヲ拜讀スルニハ熱淚ナクシテハ出來ナイ、實ニ感激ノ至デアリマス、是等ノ戊申詔書ト云ヒ、震火災後ノ國民精神作興ニ關スル詔書ト云ヒ、又教育勸語ノ中ニ「恭儉己レヲ持シ」ト云フコトガアリマス、之ニ付キマシテモ、私ノ考デハ勝馬投票券ト云フモノヲ發賣スル競馬ト云フモノヲ許スト云フコトハ、全ク聖旨ニ反スルモノト私ハ固ク信ズルノデアリマス、教育勸語ハ義務教育ノ根本トナツテ居リマス、ソレ以上ノ學校デハ、同じコトヲ繰返シテ教ヘナクテモ宜イ意味デアリマセウカ、儀式ノ時ニ捧讀スルダケデ餘リヤリマセヌノデ、實ハ多クノ人ハ知ラズ識ラズ小學校ノ教材カノヤウニ考ヘテ居ルノハ大變ナ間違デアリマス、御承知ノ通り教育勸語ノ終ヒノ方ニハ、

天皇親ヲ、御自身、明治天皇モ、後ノ代々ノ天皇モ、「拳々服膺シテ成其徳ヲ」ニセシコトヲ庶幾フ、「臣民ト俱ニ」ト云フコトニナツテ居ル、私ノ考デハ日本臣民タル者ハ終生、此ノ世ニ生キ長ラヘテ居ル間ハ、造次頓沛モ忘ル、コトナク之ヲ服膺シ、實現スベキモノデアアル、實踐躬行スベキ管デアルト思ヒマス、殊ニ國務大臣ノ如キ、天

皇ヲ輔弼シ奉ル大任ヲ拜シテ居ル方ハ、尙更普通一般ノ國民ヨリ、一層此ノ教育勸語ノ趣旨、及ビ種々ノ勸語、詔書ナドノ聖旨ヲ實現スルコトニ努メナケレバナラヌ地位ニアラル、ト思ヒマス、ソレ故ニ私ハ斯ウ云フコトヲ伺ヒタイ、競馬ニ勝馬投票券ト云フヤウナ物ヲ發賣スルコトヲ許スト云フコトハ、教育勸語ノ「恭儉己レヲ持シ」ト云フコトニ反シナイカ、又戊申詔書、ソレカラ大正十二年ノ國民精神作興ニ關スル詔書ノ一部ニ現レテ居ル所ノ聖旨ニ反シナイカ、此ノ事ヲ伺ヒタイノデアリマス、是ハ敢テ農林大臣ノ如キ主務官廳ノ人ニ限りマセヌ、總理大臣初メ各大臣ニドウカ此ノ點ヲ簡明ニ御答ヲ願ヒタイ、此ノ議會ヲ通ジテ國民ニ、各大臣ノ御考ガ分ルヤウニ簡明ニ御願ヒシマス、斯ウ云フコトヲ突然伺ヒマスノデ、即答ヲ促スト云フコトハ無理デアリマス、又必要モアリマセヌ、何レ本案ハ委員付託トナツテ、後デ委員長ノ報告ニ依ツテ第一讀會ノ續キガアルコトト思ヒマスカラ、ソレ迄宜シウゴザイマス、今日オイデニナラヌ方ガ多ウゴザイマスカラ、此ノ法案ノ委員長報告ガアル日トカ通過セラル、迄ニ、總理大臣初メ各大臣カラ今ノ點ヲ明確ニ、反スト思フカ思ハヌカラ簡單ニ御答ヲ願ヒタイ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス (角倉書記官朗讀)
競馬法中改正法律案特別委員
侯爵徳川 頼貞君 侯爵池田 宣政君
伯爵酒井 忠克君 子爵高倉 篤麿君
子爵曾我 祐邦君 子爵西尾 忠方君
松村眞一郎君 佐藤鐵太郎君
男爵沖 貞男君 男爵關 義壽君
男爵佐藤達次郎君 宮田 光雄君
丸山 鶴吉君 吉田羊治郎君
風間八左衛門君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第六、昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、日程第七、昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案、日程第八、昭和七年法律第一號中改正法律案、日程第九、昭和九年法律第七號中改正法律案、日程第十、對支文化事業特別會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ五案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、中島政務次官
昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 公爵近衛文麿殿
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月十八日
衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 公爵近衛文麿殿

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和十一年五月十八日 衆議院議長 富田幸次郎

昭和九年法律第七號中改正法律案

昭和九年法律第七號中改正法律案

昭和九年法律第七號中改正法律案

昭和九年法律第七號中改正法律案

昭和九年法律第七號中改正法律案

昭和九年法律第七號中改正法律案

昭和九年法律第七號中改正法律案

昭和九年法律第七號中改正法律案

ニ付キマシテ御説明申上ゲマス、只今議題トナリマシタ昭和十一年度一般會計歳出財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ノ提出理由ヲ説明致シマス、昭和十一年度一般會計ニ於キマシテ、既ニ成立シテ居リマス公債法ニ依リ發行スル公債金額、竝ニ滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲發行スル公債金額ノ外ニ、歳入ノ不足ヲ補填スル爲メ五億千二百九十餘萬圓ノ公債ノ發行ヲ必要トスルコトハ、曩ニ昭和十一年度追加豫算ノ大要ヲ説明致シマシタ際ニ申述ベテ置キマシタガ、之ガ爲ニハ新ニ起債ノ權能ヲ得ルコトガ必要デアリマス、尙昭和十一年度ノ歳出ニ於キマシテモ、其ノ内若干ノ金額ハ、例年ノ如ク翌年度ニ繰越サル、結果ニナルノデアラウト存ジマスガ、其ノ繰越額ノ財源ハ必ズシモ十一年度内ニ起債スルコトヲ必要ト致シマセヌ爲メ翌年度ニ於テ發行シ得ルコトト爲スヲ適當ト認メマス、右ノ理由ニ依リ本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望スル次第デアリマス、昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲メ特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用ヲナス必要ヲ認メマシテ、通信事業會計ニ屬スル資金ノ中三百四十萬圓ヲ、帝國鐵道特別會計ニ屬スル資金ノ中七百萬圓ヲ繰替使用シ、關東局特別會計ヨリ四百四十萬圓、朝鮮總督府及臺灣總督府ノ特別會計ヨリ各、百九十萬圓、樺太廳特別會計ヨリ百四十五萬圓、南洋廳特別會計ヨリ四十五萬圓ヲ一般會計ニ繰入ルルコトト致シマシタ、右繰替使用又ハ繰入ニ關シマシテハ、何レモ法律ノ制定ヲ要シマスノデ、本法律案ヲ提出致シマシタノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘ

ラレムコトヲ希望スル次第デアリマス、滿洲事件費ニ關スル經費ニ關シマシテハ、去ル第六十一回、第六十二回、第六十四回、第六十五回及第六十七回帝國議會ノ協賛ヲ經、其ノ財源ニ充テル爲メ公債ヲ發行スルコトヲ得ル法律ノ制定ヲ見マシテ、之ニ依リ昭和十一年度マデノ經費ヲ支辨シ得ル次第デアリマスルガ、昭和十一年度分ノ經費トシテ、更ニ二億二百餘萬圓ヲ必要トスルノデアリマス、其ノ中特別會計ノ分ハ、全部普通財源ヲ以テ支辨致シマスルガ、一般會計ノ分ニ付キマシテハ、滿洲國防費分擔金受入等ニ相當スル金額ヲ差引キマシタル一億七千三百八十餘萬圓ハ、今日ノ財政情況竝ニ本經費ノ性質ニ顧ミマシテ、從來ノ如ク之ヲ公債財源ニ充ツルコトト致シマシタル爲メ、現行滿洲事件ニ關スル經費ノ支辨ノ爲メ公債發行ニ關スル法律ニ依リ發行限度ヲ改正增加スル必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望スル次第デアリマス、滿洲事件ニ關シ陸海軍軍人等ニ一時賜金トシテ交付スル爲メ公債ヲ發行スルコトヲ得ル法律ハ、第六十五回帝國議會ノ協賛ヲ經テ制定サレマシタガ、其ノ後事件ガ延長シ、使用人員ノ増加ヲ必要トスルニ伴ヒ、交付公債額ハ更ニ増額ヲ要シ、該法律ヲ改正シ、公債ノ發行限度ヲ増加スルノ必要ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望スル次第デアリマス、對支文化事業特別會計ノ歳出額ハ、對支文化事業特別會計法第七條ニ依リマシテ、寄附金ニ依ルモノヲ除クノ外、毎年度三百萬圓ヲ超過シ

對支文化事業特別會計法中改正法律案

對支文化事業特別會計法中改正法律案

對支文化事業特別會計法中改正法律案

對支文化事業特別會計法中改正法律案

對支文化事業特別會計法中改正法律案

對支文化事業特別會計法中改正法律案

對支文化事業特別會計法中改正法律案

得ナイコトニナツテ居リマス、然ルニ輓近時

代ノ推移ニ伴ヒマシテ、臨時ノ増額ヲ要ス

ルモノガアリマス同時ニ、歳入ノ方面ニ

於キマシテハ團匪賠償金ノ收入ニ伴ヒマシ

テ、當初豫想シテ居ラナカッタ爲替差増ヲ

生ジテ居リマス、昭和十一年度以降

當分ノ中百萬圓ヲ限リ、右法律第七條ノ制

限額ヲ超過シ得ルコトト致シタイト考ヘマ

ス、之方爲ニハ該法律ノ改正ヲ要シマス

ノデ、本法律案ヲ提出致シマシタノデアリ

マス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレム

コトヲ希望スル次第デアリマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御質疑ガナケレ

バ、五案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマ

ス

〔角倉書記官朗讀〕

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツ

ル爲公債發行ニ關スル法律案外四件特別

委員

公爵岩倉 具榮君 子爵池田 政時君

子爵舟橋 清賢君 岡 喜七郎君

男爵松尾 義夫君 男爵松平外與磨君

土方 久徵君 西本健次郎君

大和田健三郎君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十一、米

穀自治管理法案、日程第十二、米穀統制法

中改正法律案、日程第十三、粃貯蔵助成法

案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是

等ノ三案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異

議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス、島田農林大臣

米穀自治管理法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月十八日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

米穀自治管理法案

米穀自治管理法

第一條 本法ハ内地、朝鮮及臺灣ヲ通ズ

ル過剩米穀ヲ統制スル爲内地、朝鮮及

臺灣ニ於テ米穀ノ自治管理ヲ行ハシム

ルコトヲ目的トス

第二條 米穀生産者、土地ニ付權利ヲ有ス

ル者ニシテ米穀ヲ小作料トシテ受クルモ

ノ及命令ヲ以テ指定スル之ニ準ズル者

ハ米穀統制組合ヲ設立スルコトヲ得

第三條 米穀統制組合ハ法人トシ第一條

ノ自治管理ヲ行フヲ以テ目的トス

第四條 米穀統制組合ハ其ノ目的ヲ達ス

ル爲左ノ事業ニ限リ之ヲ行フモノトス

一 第四十三條(第五十六條第二項ニ

於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ

依リ組合ニ於テ統制スベキ米穀ノ數

量ヲ組合員ニ對シ割當ツルコト

二 組合ニ於テ統制スベキ米穀ヲ貯蔵

スルコト

三 前號ノ規定ニ依リ貯蔵シタル米穀

ニ付組合員ニ資金ノ融通又ハ其ノ幹

旋ヲ爲スコト

四 第四十九條、第五十條(第五十六

條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)

又ハ第五十七條ノ規定ニ依リ米穀ノ

賣渡ヲ爲スコト

五 貯蔵米穀ノ倉庫證券ヲ發行スルコト

六 第二號ノ規定ニ依リ貯蔵シタル米穀

ニシテ貯蔵ヲ解除シタルモノヲ委託ヲ

受ケ販賣又ハ保管シ其ノ他米穀ノ自治

管理ニ附帶シ必要ナル行爲ヲ爲スコト

前項第五號ノ倉庫證券及其ノ發行ニ關

シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 米穀統制組合ノ地區ハ内地ニ在リ

テハ市町村、朝鮮ニ在リテハ府郡島、臺

灣ニ在リテハ廳又ハ郡市ノ區域ニ依ル

特別ノ事情アルトキハ米穀統制組合ノ

地區ハ前項ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外市町

村等ノ區域ニ増減アリタルトキハ其ノ區

域ヲ地區トスル米穀統制組合ノ地區モ

亦之ニ應ジテ増減アリタルモノトス

第六條 米穀統制組合ノ名稱中ニハ米穀

統制組合ナル文字ヲ用フベシ

本法ニ依リ設立シタル米穀統制組合ニ

非ザレバ其ノ名稱中ニ米穀統制組合タ

ルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ

得ズ

第七條 米穀統制組合ハ命令ノ定ムル所

ニ依リ其ノ地區内ノ第二條ニ掲グル者

ヲ以テ其ノ組合員トス

第八條 米穀統制組合ヲ設立セントスル

トキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區

内ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分

ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ

定款ヲ議定シ其ノ他必要ナル事項ヲ定

メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第九條 行政官廳ハ必要アリト認ムルト

キハ區域ヲ指定シ組合員タル資格ヲ有

スル者ニ對シ米穀統制組合ノ設立ヲ命

ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル

者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ

開キ定款ヲ議定シ其ノ他必要ナル事項

ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

設立ヲ命ゼラレタル者命令ノ定ムル期

間内ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ

行政官廳ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關

シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 米穀統制組合ハ設立ノ認可アリ

タル時又ハ前條第三項ノ規定ニ依リ定

款ノ作成アリタル時成立ス

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ遲滯ナ

ク組合設立ノ旨並ニ組合長及副組合長

ノ住所及氏名ヲ告示スベシ

第十一條 米穀統制組合成立シタルトキ

ハ其ノ地區内ノ組合員タル資格ヲ有ス

ル者ハ總テ其ノ組合員トス

第十二條 該當スル者ニシテ第七條ノ命

令ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ

有セザルモノハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ

米穀統制組合ニ加入スルコトヲ得

第十二條 米穀統制組合ニ總代會ヲ置ク

總代會ハ組合長、副組合長及總代ヲ以

テ之ヲ組織ス

第十三條 米穀統制組合ノ組合員ハ命令

ノ定ムル所ニ依リ組合員中ヨリ總代ヲ

選舉スベシ

第十四條 左ニ掲グル事項ハ總代會ノ議

決ヲ經ベシ

一 收支豫算

二 經費ノ分賦收入方法

三 事業報告及收支決算

四 借入金

五 定款ノ變更

六 第三十七條ニ於テ準用スル第八條

ノ同意

七 第四十三條(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ割當

前項第一號、第二號、第四號及第五號ニ掲グル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十五條 定款ノ變更ハ總代會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

定款ノ變更ガ地區ノ増減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入セラレ又ハ削除セラレベキ區域内ノ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外總代會及役員ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 特別ノ事情アル米穀統制組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ總代會ヲ設ケズ組合員ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

總代會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第十八條 米穀統制組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長 一人
副組合長 一人
評議員 數人
役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合長及副組合長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ゲズ
役員ノ選任及解任ハ總代會ニ於テ之ヲ行フ
役員ノ解任竝ニ第二項但書ノ規定ニ依ル組合長及副組合長ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

組合長ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ行政官廳ハ總代ヲ指定シ組合長ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

組合長及副組合長ノ選任及退任ハ第四項及第二十六條ノ場合ヲ除クノ外其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

行政官廳第四項ノ認可、第五項ノ指定若ハ第二十六條ノ解任ヲ爲シ又ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ告示スベシ

第十九條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ總理ス

副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

評議員ハ組合長ノ諮問ニ應ジ竝ニ組合ノ業務執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十條 總代會ノ議決ヲ經ベキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ總代會成立セザルトキ又ハ之ヲ召集スルノ暇ナキトキハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外組合長之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ專決處分ヲ爲シタルトキハ組合長ハ次ノ總代會ニ之ヲ報告スベシ

第二十一條 米穀統制組合ハ第十八條ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ職員ヲ置クコトヲ得
前項ノ職員ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十二條 米穀統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得
米穀統制組合ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ組合長ノ請

求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ米穀統制組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

市町村ガ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セズ又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セザルトキハ組合長ハ行政官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制

第百一十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時効ニ付テハ市町村税ノ例ニ依ル

朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀統制組合ノ經費及過怠金ノ分賦徵收、滯納處分、先取特權ノ順位及時効ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依ル

經費ノ分賦及過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟(朝鮮ニ在リテハ異議ノ申立、臺灣ニ在リテハ異議ノ申立及訴願ニ限ル)ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 米穀統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第二十四條 使用料及手数料ノ徵收、米穀ノ寄託其ノ他米穀統制組合ト組合員トノ間ニ於ケル權利義務ニ關シテハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 行政官廳ハ米穀統制組合ニ對シ組合ノ事務ニ關スル報告ヲ爲サシ

メ、組合ノ業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 行政官廳ハ米穀統制組合ノ決議若ハ選舉又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議、選舉若ハ當選ヲ取消シ、役員ヲ解任シ、總代ノ改選ヲ命ジ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 米穀統制組合解散又ハ合併ヲ爲サントスルトキハ總代會ノ議決ヲ經且其ノ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得尙合併ノ場合ニ在リテハ定款ヲ議定シ其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

米穀統制組合分割ヲ爲サントスルトキハ前項ノ規定ニ準ズル議決及同意ノ外分割ノ各組合員ノ組合員又ハ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且定款ヲ議定シ其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十條及第十五條第一項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外解散、合併又ハ分割ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 米穀ヲ取扱フ販賣組合(以下米穀販賣組合ト稱ス)ノ存スル市町村ニ於テ特別ノ事情アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制組合ノ事業ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀販賣組合ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ米穀

販賣組合ナキ市町村ニ於テハ勅令ノ定
ムル所ニ依リ農會ハ行政官廳ノ許可ヲ
受ケ米穀統制組合ノ事業ヲ行フコトヲ
得

朝鮮及臺灣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ
依リ米穀ヲ取扱フ產業組合又ハ農會ハ
行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀統制組合ノ
事業ヲ行フコトヲ得

第二十九條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ
團體ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ團體員ニ
非ズシテ其ノ區域内ニ於テ米穀統制組
合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ
團體員ニ準ジ第四條第一項ニ掲グル事
業ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第四條第一項ニ掲
グル事業ヲ行フ團體ハ前項ニ規定スル
者ヨリ團體員ノ例ニ準ジ使用料及手數
料ヲ徵收スルコトヲ得

第三十條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團
體ガ第四十三條ノ規定(第五十六條第
二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依
ル割當ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總
代會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

米穀統制組合ノ事業ヲ行フ場合ニ於ケ
ル前項ノ團體ノ監督及總會又ハ總代會
ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコ
トヲ得

第三十一條 米穀統制組合及其ノ事業ヲ
行フ團體ハ團體相互ノ聯絡ヲ圖リ米穀
ノ自治管理ヲ行フ目的ヲ以テ地方米穀
統制組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第三十二條 地方米穀統制組合聯合會ハ

法人トス

第三十三條 地方米穀統制組合聯合會ノ
地區ハ内地ニ在リテハ道府縣、朝鮮ニ
在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州ノ區域
ニ依ル

第三十四條 地方米穀統制組合聯合會ニ
總會ヲ置ク

總會ハ會長、副會長及議員ヲ以テ之ヲ
組織ス

第三十五條 地方米穀統制組合聯合會ノ
議員ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制
組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ代表者
ヲ以テ之ニ充ツ

第三十六條 地方米穀統制組合聯合會ニ
左ノ役員ヲ置ク

會長 一人

副會長 一人又ハ二人

評議員 數人

役員ハ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長
及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任ス
ルコトヲ妨ゲズ

前項但書ノ規定ニ依ル會長及副會長ノ
選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザ
レバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十七條 第四條第一項、第六條、第
八條乃至第十條、第十一條第一項、第
十四條乃至第十六條、第十八條第三項
乃至第七項、第十九條乃至第二十一條、

第二十二條第一項及第二十三條乃至第
二十六條ノ規定並ニ第二十七條中解散

ニ關スル規定ハ地方米穀統制組合聯合
會ニ之ヲ準用ス

第三十八條 勅令ノ定ムル所ニ依リ行政
官廳ノ許可ヲ受ケ道府縣ヲ區域トスル

米穀ヲ取扱フ販賣組合聯合會(以下道
府縣米穀販賣組合聯合會ト稱ス)ハ地
方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フコ
トヲ得

第三十九條 地方米穀統制組合聯合會ノ
事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會
ハ其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合及
所屬組合ニ非ズシテ米穀統制組合ノ事
業ヲ行フ團體ニ對シ所屬組合ニ準ジ第
三十七條ニ於テ準用スル第四條第一項
ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得

第四十條 地方米穀統制組合聯合會ノ事
業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會第
四十三條ノ規定(第五十六條第二項ニ
於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル割當
ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總代會ノ
議決ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ
之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事
業ヲ行フ團體ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會
ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコ
トヲ得

第四十一條 政府ハ每年内地、朝鮮及臺
灣ヲ通ジ米穀需給推算ヲ行ヒ米穀ノ供
給過剩ナリト認ムルトキハ其ノ過剩數
量ノ範圍内ニ於テ定ムル一定數量ノ米
穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシ
ムルコトヲ得

前項ノ米穀需給推算ノ方法ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム

第一項ノ一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣
ニ對スル割當ノ割合ハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ノ米穀管外移
出數量ノ増加趨勢ノ外ニ米穀管外移出
數量、米穀收穫ノ豊凶等ヲモ參酌シテ
之ヲ定ム

第四十二條 前條第一項ノ米穀需給推算
及統制スベキ米穀ノ數量並ニ同條第三
項ノ割當ノ割合ニ付テハ米穀自治管理
委員會ニ諮問シテ之ヲ定ム

米穀自治管理委員會ノ組織及權限ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條 政府ハ第四十一條ノ規定ニ
依リ内地、朝鮮及臺灣ニ付定マリタル
數量ヲ各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル地
方米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ
行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ニ對シ
割當テ其ノ米穀ニ付統制ヲ命ジ、地方
米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行
フ道府縣米穀販賣組合聯合會ハ其ノ割
當テラレタル數量ヲ米穀統制組合又ハ
其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ割當ツルコ
トヲ要ス

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體
ハ其ノ割當テラレタル數量ヲ團體員及
第二十九條ニ規定スル者ニ對シ割當ツ
ルコトヲ要ス

朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムベキ米穀
ノ數量ノ割當ニ付テハ前二項ノ規定ニ
關シ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第四十四條 地方米穀統制組合聯合會若

ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀統制組
合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體前條ノ規定

ニ依ル割當ヲ爲サザル場合ニ於テハ政
府ハ之ニ代リ割當ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 前二條ノ割當ニ關シ必要ナ
ル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 米穀統制組合又ハ其ノ事業
ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量

ノ米穀ヲ貯藏スルコトヲ要ス但シ其ノ
貯藏ヲ解除シタルモノ及第四十九條又

ハ第五十條ノ規定ニ依リ政府ノ買入ヲ
爲シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十七條 米穀統制組合又ハ其ノ事業
ヲ行フ團體ノ團體員ハ第四十三條又ハ

第四十四條ノ規定ニ依リ割當テラレタ
ル數量ノ米穀ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體
ニ寄託スルコトヲ要ス第二十九條及第

三十條ニ規定スル者ニ付亦同ジ

第四十八條 米穀統制組合又ハ其ノ事業
ヲ行フ團體ハ第二項ノ場合及勅令ノ定

ムル場合ヲ除クノ外第四十六條ノ規定
ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付其ノ貯藏ノ

解除ヲ爲スコトヲ得ズ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ
定ムル所ニ依リ第四十六條ノ規定ニ依

リ貯藏シタル米穀ニ付其ノ貯藏ノ解除
ヲ命ズルコトヲ得

第四十九條 政府ハ米穀統制組合又ハ其
ノ事業ヲ行フ團體ガ貯藏スベキ米穀中

貯藏能力其ノ他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナ

リト認ムルモノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ
申込アリタル場合ニ於テハ買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ内地ニ在リテハ米穀
統制法第二條ノ最低價格、朝鮮及臺灣

ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀
生産費、物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌

シテ定メタル價格トス

第五十條 政府ハ必要アリト認ムルトキ
ハ米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團

體ガ第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタ
ル米穀ニシテ當該米穀年度ヲ越ユルモ

其ノ貯藏ヲ解除セラレザルモノニ付買
入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 命令ヲ以テ指定スル地ニ於
ケル米穀取扱業者ハ米穀商統制組合ヲ

設立スルコトヲ得

前項ノ米穀取扱業者ノ範圍ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム

第五十二條 米穀商統制組合ハ法人トシ
第一條ノ自治管理ヲ行フヲ以テ目的ト

ス

第五十三條 第四條第一項、第六條及第
八條乃至第二十七條ノ規定ハ米穀商統

制組合ニ之ヲ準用ス

第五十四條 勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀
取扱業者ノ組織スル商業組合又ハ重要

物産同業組合法若ハ朝鮮重要物産同業
組合令ニ依リ同業組合ハ行政官廳ノ許

可ヲ受ケ米穀商統制組合ノ事業ヲ行フ
コトヲ得

場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 勅令ノ定ムル所ニ依リ政府
ハ第四十一條ノ統制ヲ爲スモ米穀ノ供

給過剩ニシテ米價ガ米穀統制法ニ基キ
テ發スル命令ニ定ムル標準最低價格ヲ

下ラントスル虞アリト認ムルトキハ米
穀自治管理委員會ニ諮問シテ一定數量

ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制
セシムルコトヲ得

第五十六條 前條ノ場合ニ於テハ政府ハ
各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル地方米穀

統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團
體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ

行フ團體ニ對シ前條ノ一定數量ヲ割當
テ其ノ米穀ニ付統制ヲ命ズ

第四十三條乃至第四十八條及第五十條
ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ統制ヲ命ゼ

ラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 政府ハ米穀統制組合若ハ其
ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合

若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ガ前條ノ規定
ニ依リ貯藏スベキ米穀中貯藏能力其ノ

他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナリト認ムル
モノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ申込アリ

タル場合ニ於テハ買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ内地米ニ在リテハ米
穀統制法第二條ノ最低價格、朝鮮米又

ハ臺灣米ニ在リテハ勅令ノ定ムル一定
價格以內ニ於テ時價ニ準據シテ定メタ

ル價格トス

第五十八條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第十二
條、第十八條、第十九條及第三十六條ノ

規定(第三十七條又ハ第五十三條ニ於
テ準用スル場合ヲ含ム)ニ關シ命令ヲ

以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第五十九條 地方米穀統制組合聯合會又
ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ役員命令ノ定

ムル第四十三條ノ規定(第五十六條第
二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依

ル割當ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ爲サザ
ルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス米穀

統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ
米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團

體ノ役員命令ノ定ムル第四十三條ノ規
定(第五十六條第二項ニ於テ準用スル

場合ヲ含ム)ニ依リ割當ヲ爲スニ必要
ナル行爲ヲ爲サザルトキ亦同ジ

第六十條 非訟事件手續法第二百六條乃
至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之

ヲ準用ス

第六十一條 米穀統制組合若ハ其ノ事業
ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其

ノ事業ヲ行フ團體第四十六條ノ規定
(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場

合ヲ含ム)ニ違反シタルトキハ其ノ法
人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五百圓以下

ノ罰金ニ處ス

前項ノ組合又ハ團體第四十八條第一項
ノ規定(第五十六條第二項ニ於テ準用

スル場合ヲ含ム)ニ違反シタルトキ亦
前項ニ同ジ

第六十二條 米穀統制組合若ハ其ノ事業
ヲ行フ團體、地方米穀統制組合聯合會

若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統

制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ役員、第二十一條ノ職員、總代、議員、

組合員又ハ代議員本法ニ依ル割當又ハ貯藏ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求

若ハ約東シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當

ノ行為ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收

スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十三條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二

年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六十四條 第四十九條、第五十條(第五十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含

ム)及第五十七條ノ規定ニ依ル米穀ノ買入ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ米穀需

給調節特別會計ニ屬セシム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條第一項ニ規定スル一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當割合ハ當

分ノ内同條第三項ノ規定ニ拘ラズ内地百分ノ三十五、朝鮮百分ノ四十三、臺灣百

分ノ二十二トス但シ政府ハ内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀收穫ノ豐凶等ニ依リ米

穀自治管理委員會ニ諮問シテ之ヲ變更ス

ルコトヲ妨グズ

米穀統制法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月十八日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

米穀統制法中改正法律案

米穀統制法中左ノ通改正ス

第二條第三項中「前項」ヲ「前二項」ニ改メ

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ第一項ノ最低價格ノ決定ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ金利及保管料

ヲ加算スルコトヲ得

第四條ノ二 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ災害、事變其ノ他避クベカラザル事

由アル場合ニ於テ米穀ノ配給上特ニ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ市價ニ惡

影響ヲ及ボサザル場合ニ限り所有米穀ノ總數量ヨリ最高價格ヲ維持スル爲必

要ナル數量ヲ控除シタル數量ノ範圍内ニ於テ道府縣ニ對シ米穀ノ賣渡ヲ爲ス

コトヲ得

前項ノ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第八條及第九條中「高粱又ハ黍」ヲ「高粱、黍、小麥又ハ小麥粉」ニ改ム

第十二條中「高粱若ハ黍」ヲ「高粱、黍、小麥若ハ小麥粉」ニ、「高粱又ハ黍」ヲ「高粱、黍、小麥又ハ小麥粉」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條ノ二ノ規定ニ依ル米穀ノ賣渡ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

米穀共同貯藏助成法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月十八日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

米穀共同貯藏助成法案

第一條 政府ハ産業組合、農會其ノ他勅令ヲ以テ指定スル團體ガ米穀ノ出廻數量ノ調節又ハ備荒貯蓄ノ目的ヲ以テ

貯藏スルトキハ之ヲ助成スル爲貯藏團體ニ對シ米穀需給調節特別會計ニ屬

スル米穀ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ交付ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ依リ交付スル助成米ノ數量ハ毎年三十萬石ヲ超ユルコトヲ得

第二條 政府ハ本法ニ基ク命令ニ違反シタル團體ニ對シ其ノ交付ヲ受ケタル米

穀ノ價額ニ相當スル金額ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

第三條 本法ニ依リ助成米ノ交付ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ米穀需給調節特別會計ニ屬セシム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣(島田俊雄君) 只今議題ト相成リマシタ米穀關係三法案ノ提案ノ理由ヲ申

上ゲマス、御承知ノ如ク政府ハ曩ニ米穀統制法ノ實施ノ經過及諸般ノ米穀事情、竝ニ

財政上ノ影響等ニ鑑ミマシテ、之ガ對策考究ノ爲メ、特ニ設置サレマシタ米穀對策調

査會ノ答申ニ基キマシテ、米穀自治管理法案、米穀統制法中改正法律案及米穀共同貯藏

助成法案ノ三案ヲ立案致シマシテ、之ヲ第六十七回帝國議會ニ提出致シマシタ、而シ

テ衆議院ニ於キマシテハ一部修正ノ上可決致シマシタガ、貴族院ニ於キマシテハ會期

滿了ノ爲メ遺憾ナガラ審議未了ニ終ツタデアリマス、然ルニ此ノ三法案ハ何レモ現

行米穀統制法ノ實施上、一日モ速カニ之ヲ成立セシムルノ必要ガアルト認メマスルノ

デ、之ヲ本會議ニ提案致シタ次第デアリマス、右三法案中、第一ノ米穀自治管理法案

ノ眼目ト致シマスル所ハ過剩米ノ統制デアリマス、内地、外地、即チ朝鮮、臺灣ヲ通

ジマシテ、米穀ノ生産者等ヲシテ、過剩米穀ヲ自治的ニ管理セシメ、以テ米穀統制ノ

目的ヲ達成セムトスルノデアリマス、即チ政府ハ毎年米穀年度ノ初メニ於キマシテ米

穀ノ需給推算ヲ行ヒマシテ、其ノ結果過剩米アリト認メマシタ場合ハ、其ノ過剩數量

ノ範圍内ニ於テ一定ノ數量ヲ定メテ、之ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ割當テマシテ、ソレゾ

レノ機關ヲシテ割當數量ノ米穀ヲ貯藏管理

セシムルノデアリマス、統制ヲ行フ機關ト致シマシテハ、内地、朝鮮及臺灣ニ於テ、一定ノ地域、即チ内地ニ於キマシテハ市町、村、朝鮮ニ於キマシテハ、府、郡、島、臺灣ニ於キマシテハ廳又ハ郡、市ノ區域ニ依リマシテ、其ノ區域内ニ於ケル生産者等ヲシテ米穀統制組合ヲ設立致サセマシテ、之ヲ第一次ノ統制機關ト致シマシテ、更ニ其ノ上級機關ト致シマシテ、道府縣等ノ區域ニ依リマシテ、其ノ區域内ニ於ケル米穀統制組合ヲ以テ組織致シマスル聯合會ヲ設立致サセルノデアリマス、而シテ内地ニ於キマシテハ、農村ノ實情ニ鑑ミマシテ、政府ニ於テ許可致シマス場合ハ、當該地區ニ於ケル米穀販賣組合並ニ農會ガ米穀統制組合等ノ業務ヲ代行シ得ルコトノ途ヲ開カレテ居ルノデアリマス、即チ政府ニ於テ推算上過剩米穀ガアリト認メマシテ、其ノ數量ヲ決定致シマシテ場合ハ、先ヅ一定ノ割合ニ依リマシテ、之ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ割當テラルデアリマス、内地、朝鮮及臺灣ニ於キマシテハ、ソレゾレ割當テラレマシタ所ノ數量ヲ、各米穀統制組合聯合會又ハ其ノ代行團體ニ割當テマシテ、一定ノ數量ノ米穀ノ統制ヲ命ジマシテ、聯合會ハ更ニ其ノ割當テラレタル所ノ數量ヲ、所屬ノ米穀統制組合又ハ其ノ代行團體ニ割當テマシテ、而シテ所屬團體ハ割當テラレタル數量ノ米穀ヲ又更ニ各團體ニ割當テマシテ、之ヲ貯藏セシムルコトトスルノデアリマス、此ノ場合統制ヲ命ゼラレマシタ所ノ團體ガ貯藏能力其ノ他ノ事情ノ爲ニ、

貯藏困難デアルヤウナ場合ニ於キマシテハ、其ノ希望ニ依リマシテ、政府ハ一定ノ價格ヲ以テ之ヲ買上ゲマシテ、而シテ統制ノ目的ヲ貫徹シ得ルコトト致シテ居ルノデアリマス、尙斯クノ如ク致シマシテ、貯藏管理セラレタ所ノ米穀ハ、米價ガ標準最低價格ヨリ一定ノ程度値上リヲ致シマシタ場合ニ於キマシテハ、之ヲ解除スルコトトセラレテ居ルノデアリマス、以上申上ゲマシタ順序ニ依リマシテ、米穀生産等ノ團體ニ自治管理ヲ行ハセマシタ以後ニ於テ、天候等ノ關係ニ依リマシテ、實際ノ米ノ收穫高ガ増加致シマシタ等ノ爲ニ、更ニヨリ以上ニ米穀ノ過剩ヲ來ス如キ場合ニ於キマシテハ、政府ハ第二次ノ統制ヲ命ズルコトヲ得ルモノト致シテ居ルノデアリマス、即チ其ノ場合ニ於キマシテハ、米穀生産者等ノ團體タル統制組合又ハ其ノ代行團體ノ外ニ、更ニ米穀取扱業者ノ團體ニ對シマシテモ、相當數量ノ割當ヲ致シマシテ、統制上遺憾ナキヲ期スルコトトナツテ居ルノデアリマス、斯クノ如ク致シマスコトニ依リマシテ米穀ノ需給ヲ圓滑ナラシメ、米穀ノ生産者等ハ勿論、配給機關タル米穀取扱業者モ、不測ノ損害ヲ被ルコトナク、又消費者ニ對シマシテモ、好キ影響ヲ及ボスコトト信ズルノデアリマス、尙本案實施ヲ見ルニ於キマシテハ、政府ハ從來ノ如ク多量ノ米穀ヲ一時ニ買上ゲルコトガ無クナリマス次第デアリマシテ、從ツテ相當國庫ノ負擔ヲ輕減致シマシテ、米穀統制法ノ運用ト相俟チマシテ、米穀統制上好結果ヲ齎スモ

ノト信ズルノデアリマス、本法案ニ對スル第六十七議會ニ於ケル衆議院修正ノ點ハ、過剩米穀ヲ自治的ニ統制セムトスルノ趣意ヲ變更スルモノニアラズト認メマス、仍テ右修正ノ趣旨ニ依リマシテ、本法案ニ於キマシテハ、第六十七議會ニ提案致シマシタル政府原案ニ對シマシテ、米穀統制組合ノ事業ノ中ニ倉庫證發發行ノ項ヲ加ヘマシタ、又中央米穀統制組合聯合會及之ニ關聯スル事項、販賣組合等ノ、米穀販賣價格ノ制限ニ關スル：最低價格ノ金利及米穀販賣價格ノ制限ニ關スル事項、販賣組合聯合會ノ下級團體ニ對スル平均賣ノ指令ニ關スル事項等ハ之ヲ削除致シマシタ、之ヲ要シマスルノニ、本法案ハ大體ニ於テ第六十七議會ニ於ケル衆議院修正案ノ内容ト大體同様ノモノデアルト御了知ヲ願ヒタイノデアリマス、次ニ三法案ノ第二、米穀統制法中改正法律案ニ付キマシテ申上ゲマス、本改正案ニ於キマシテハ、改正セムトスル所ノ點ハ、第一ニ米ノ出廻期ニ於キマシテ農家ガ米ノ賣急ギヲ致シマシテ、政府ニ對スル賣渡申込ガ一時ニ殺到スル等ノ弊ヲ防止致シマスル爲ニ、最低價格ニ金利及保管料ヲ加算スルコト云フコトニ致シタ點デアリマス、第二ニ點ハ災害等ノ場合ニ於キマシテ、政府所ノ有米ヲ賣渡シマシテ應急ノ處置ヲ爲シ得ルノ途ヲ開クコトト致シタ次第デアリマス、而シテ改正ノ第三ノ點ハ、粟、高粱及黍ト同様ニ、米ノ代用食糧デアリマスル所ノ小麥及小麥粉ニ付キマシテモ、輸入ノ制限及輸入稅ノ増減並ニ免除ヲ爲シ得ルコトト致

シタ點デアリマス、此ノ三點ガ統制法中改正ノ要點デアリマス、三法案ノ中ノ第三、糶ノ共同貯藏助成法案デアリマス、糶ノ共同貯藏助成ニ付キマシテハ、既ニ昭和五年及昭和八年ノ大農作ニ際シマシテ之ヲ獎勵實行致シマシテ、相當效果ヲ擧ゲマシタコトハ、御承知ノコトト存ジマスルガ、本法案ハ此ノ糶ノ共同貯藏ノ助成ヲ恆久的ノ施設ト致シテ行ハムトスルコトヲ目的ト致シテ居ルモノデアリマス、即チ產業組合又ハ農會等ノ團體ガ、米ノ出廻リ數量ノ調節又ハ備荒貯蓄ノ目的ヲ以チマシテ、糶ヲ貯藏致シマスル場合、政府ハ是等貯藏團體ニ對シマシテ、金利及保管料ニ相當スル政府所有ノ米穀ヲ交付スルコトヲ得ルノ途ヲ設ケマシテ、其ノ獎勵ヲ致サムトスルモノデアリマス、以上簡單ニ三法案ノ提案理由ヲ說明致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ賜ラムコトヲ御願ヒ致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 大河内子爵

○子爵大河内輝耕君 最初ノ質問ハ簡單デゴザイマスカラ、此ノ席カラ……此ノ法案ニ對シマシテ衆議院デ大分希望決議ガ附キマシタヤウデゴザイマスガ、皆適當ノモノノヤウニ存ジマスルガ、政府トシテハ御同意デアルト心得テ宜シウゴザイマスカ、先ヅ其ノ點ヲ伺ヒマス

(國務大臣島田俊雄君演壇ニ登ル)

○國務大臣(島田俊雄君) 只今ノ御尋ニ御答ヘ致シマス、衆議院ニ於テ附帶決議トシテ決定サレマシタコト、竝ニ其ノ他希望ノ點ニ付テ述ベラレタ事柄ニ付キマシテハ、

趣意ニ於テ政府ハ之ニ賛成ヲシテ居ルモノ
ガ多數ニアリマス、但シ之ヲ直チニ實行ニ
現スト云フコトニ付テハ、相當ナ準備或ハ
經費ヲ要スル等ノ關係ガアリマスノデ、其
ノ趣旨ヲ諒トシテ十分研究ヲスルト、斯ウ
云フ立場ニ立ツテ居ル次第アリマス

○議長(公爵近衛文麿君) 大河内子爵

〔子爵大河内輝耕君演壇ニ登ル〕

○子爵大河内輝耕君 私人衆議院ノ希望ノ
條項ノ中デ……總テ適切ナルモノダト存ジ
マスルカラドウカソレヲ十分御研究ヲ願ヒ
タイト存ジマスガ、其ノ中ノ一ツノ外米統
制ニ付キマシテ質問ヲ致シタイト思ヒマ
ス、實ハ此ノ前モ質問ヲ致シタイトノデ、
皆様方ニハ誠ニ恐縮デゴザイマスルガ、政
府トシテハ初メテノコトデゴザイマスル
ヲ、御意見ヲ伺ヒタイト存ジマス、ソレハ
此ノ外米ノ統制ハ四十一條ニ第一次ノ統制
ヲ認メ、ソレカラ五十五條ニ第二次ノ統制
ヲ認メテ居リマスガ、四十九條ノ二項ニハ
是ハ生産費デヤルコトニ規定ガ出來テ居リ
マス、併シ五十五條ノ方ノハ是ハ生産費デ
ナイノデ、米穀統制法第二條ノ最低價格ト
カ、或ハ又朝鮮米、臺灣米ニ於テハ勅令ノ
定ムル一定價格以內ニ時價ニ準據シテ之ヲ
定メタル價格トス、即チ内地ノ時價ヲ主ト
シテ取リマシテ、サウシテ格差ト運賃ダケ
ヲマア見タヤウナ關係ニナツテ居ルコトト
存ジマス、是ガマア五十七條ニ規定ニナツ
テ居リマスルガ、其ノ結果トシテ、其ノ外米
ガ澤山出來マシタ場合ニ日本へ持ッテ來ル
ト云フト……内地へ持ッテ來マスト云フ

ト、幾ラデモ持ッテ來ラレル、第一次ノ統制
トシテヤレマスルケレドモ、是ハマア過剩
米ガ五百萬石ト見マシテ、高々十五萬石位
ノコトデ大シタコトデゴザイマセヌ、是ダ
ケヤツテシマツテ、後ノモノハ第二次ノ統制
ニ依ラナケレバナラヌ、第二次ノ統制ニ依
ルトナルト、是ハ生産費ニ依ルモノデナク
シテ時價ニ依リマス、ソレデ詰リ内地ノ時
價デ買上ゲルト云フコトニナルカラ、非常
ナ高イモノニナリマス、從ッテ生産費ノ低イ
外米へ、作りサヘスレバ利益ニナリマス、
作ッテドソノ持ッテ來サヘスレバ、少クト
モ最低價格デ内地デ買ッテ貫ヘルコトニナ
リマス、非常ナ是ハ詰リ外米増作獎勵案ニ
ナリマシテ、此ノ儘抛ッテ置イタノデハ、米
穀政策ノ上カラ見テハ非常ニ厄介ナコトニ
ナラウト存ジマス、ドウカ此ノ點ハ今御研
究ニナルト云フコトデゴザイマスカラ、重
ネテ申上ゲルコトモ如何カトハ存ジマス
ケレドモ、重ネテ此ノ問題ヲ明カニシマシ
テ、政府當局ノ御研究ヲ煩ヘシタイト存ジ
マス、尙之ニ付キマシテハ大藏當局ニモ同
様ナ希望ヲ申上ゲタイ、馬場大藏大臣ガ在
野當時ニ金融研究會デ御發表ニナリマシタ
通りニ、米穀經濟ト云フモノハ財政上非常
ナ關係ガアル、殊ニ是ハ財政上ノ痛ノヤウ
ニナツテ居リマシテ、馬場大藏大臣ノ御計算
ニ依レバ年ニ一億位ノ負擔ニナルト云フコ
トデゴザイマス、ソレデヤ今日ノ此ノ赤字
公債ノ上ニ、此ノ上ニモ尙一億モ背負フヤ
ウナコトデハ容易デハナイ、財政當局ニ於
カレテハ殊ニ此ノ點ニ付キマシテハ留意サ

レテ、ドウカ十分ニ御研究ヲ願ヒタイ、ド
ウモ從來財政當局ガ此ノ點ニ付テ甚ダ冷淡
ダト私ハ感ジテ居リマス、幸ヒサウ云フ持
論ヲ持ッテオイデニナル大臣ヲ戴イタ今日
デゴザイマスカラ、熱心ニ此ノ點ヲ御研究
願ヒタイト思ヒマシテ、此ノ機會ヲ利用致
シマシテ、重ネテ希望ヲ申上ゲテ置キマ
ス、此ノ點ニ付キマシテ農林大臣竝ニ大藏
大臣……大藏當局ノ御意見ヲ伺ヒタイト存
ジマス

○國務大臣(島田俊雄君) 大河内子爵ノ只

今第二次統制ノ場合ニ付テノ、御質問申

シマスカ御意見ト申シマスガ、第五十五條
ノ第二次統制ノ場合ニ於キマシテハ、先刻
申上ゲマシタ如ク、生産者ニ自治管理ヲ第
一次的ニヤラセマシテ、尙其ノ場合ニ於
テ、豐作其ノ他ノ事情ニ依リマシテ、尙過剩
米ノアルト云フ場合ニ於キマシテ初メテ之
ヲ實行スルノデアリマス、左様ナ場合ニ於
キマシテハ米價モ非常ニ下ッテ來ル譯デア
リマス、最低價格ヲ割ラムトスルヤウナ事
情ニアル場合デアルト考ヘマスルガ故ニ、
只令御話ノヤウナ憂ハ無カラウカト考ヘテ
居リマスノデアリマスガ、尙此ノ點ニ付キ
マシテハ、左様ナ御質問ノアリマシタヤウナ
點ニ付テ十分考究ヲ致シタイ、斯様ニ考ヘ
テ居リマスガ、一應此ノ立案ノ趣意カラ申
シマス、只今御質疑ノ現レタヤウナ憂ハ
無イカノヤウニ考ヘテ居リマス

〔副議長伯爵松平頼壽君議長席ニ著ク〕
最高價格ニ達スルニアラザレバ賣拂フコト
ガ出來マセヌノデアリマスルケレドモ、此
ノ米穀自治管理法ガ施行サレマシタ時ニ
於キマシテハ、最低價格ノ上値一割標準ニ
テ其ノ貯藏米ノ義務ヲ解除スルコトガ出來
マスルヤウナコトニナリマスノデ、此ノ點
ニ於キマシテ國費ノ負擔ガ餘程輕減サレル
コトトナリマス、又此ノ米穀自治管理法案
ニ依リマスルト云フト、政府ノ買上米ハ外
地ノ米穀統制組合ヨリ買上ゲラレルモノガ
大ナル部分ヲ占メテ居リマシテ、サウシテ
其ノ買上價格ハ外地米ノ中庸生産費ニ付キ
マシテハ目下研究中デアリマスルガ、大體
之ヲ基準ト致シマシテ、其ノ他ノ點ヲ考慮
シマシテ決定シマスルノデ、是ハ第四十九
條ニ規定シテアリマス、外地米ノ中庸生産
費ハ大體ニ於キマシテ内地米ノ中庸生産費
ヲ基準トスルモノ、即チ統制法ノ最低價格
ヨリ低位ニアルモノト考ヘラレマスルノ
デ、此ノ點ニ於キマシテモ米穀特別會計ノ
負擔ヲ餘程輕減サレルコトニナルト考ヘマ
ス、尙大河内子爵ノ御希望ガアリマシタノ
デ、私共ニ於キマシテモ此ノ點ニ付キマシ
テハ十分ニ研究致シマシテ、米穀特別會計
ノ負擔ヲ輕カラシメ、又其ノ他一般會計ノ
支出ニ於キマシテモ輕減スルヤウニ、極力
研究致シマシテ御希望ニ副ヒタク決心シテ

○政府委員(中島彌國次君) 只今大河内子

居ル次第アリマス

(子爵大河内輝耕君演壇ニ登ル)

○子爵大河内輝耕君 時間ガゴザイマセヌノデ、差急ギマシテ、簡單ニ申シタモノデアリマスカラ、農林大臣ニ徹底シマセヌデシテ、又立タナケレバナラヌコトニナリマシテ、甚ダ皆様ニ恐縮ニ存ジマス、私ノ申上ゲタノニ付テ、サウ云フ心配ハナイダラウト云フヤウナ御話デスガ、ドウ云フ譯デサウ云フコトヲ仰シヤルノカ、チョット其ノ點ガ私ニハ分ラナイ、外米ハ生産費デ買フコトニナツテ居リマスケレドモ、生産費デ買ヒマシタ所デ、其ノ生産費ガ神様ノ造ツタ生産費デナイノデスカラ、是ガ成程安クデモ出来レバ、外米ノ獎勵ニハナリマセヌケレドモ、是ガ不幸ニシテ高クデモ造ラレタナラバ、ドウニモ仕方ガナイ、併シ是ハ其ノ點ハ法律ノ罪デハナイノデ、法律ノ運用ノ罪デアリマスカラ、是ハ彼此申シマセヌ、唯生産費ノヤウナモノヲ基準ニシタト云フコトガ變ニ考ヘラレルダケデアリマス、併シ第二次ノ統制ニ依リマシテハ、今大藏政務次官カラ御話ノ通りニ、同時ニ唯經費ノ節約ハ多少ハ出来マセウ、出来マセウケレドモ、是ハ時價ニ依ルコトニナツテ居リマスノデスカラ、此ノ點デ行キマスレバ、外地米ハ作テ持ツテ行ケバ、持ツテ行クダケ是ダケノ價格デ買ウテ貰ヘマスカラ、外地米ニハ非常ニ利益ニナル、ソレノミナラズ第一次ノ統制ガ下ノ位デ出来ルカト云フト、タツタニ百萬石位シカ出来ナイ、第二次ノ統制ハ過剩米五百万石ト見テ其ノ四割三分デスカラ

二百十五萬石、一杯ヤツテ見タ所デ其ノ位ノモノデスカラ、ソレ以上ニ出来タモノハ皆内地ニ持ツテ來ル、内地ニ持ツテ行ケバソレダケ得ニナル、ソレダケ利益ヲ得ラレル、詰リ朝鮮ナリ、臺灣ナリノ耕作者カラ見レバ、作レバ作ルダケ得デアリマス、此ノ案ヲズットヤツテ行キマスレバ、只今ハ宜イデセウ、急ニサウ云フコトモアリマスマイガ、屹度外米増作獎勵案ト云フコトニナル結果ニ相成リマス、此ノ點ヲ御了解下サツテ御答ナラバ宜シイノデアリマスガ、言葉ガ餘リニ急ギマシタ爲ニ分リニクカッタコトト思ツテ、重ネテ質問ヲ致ス次第デアリマス

(國務大臣島田俊雄君演壇ニ登ル)

○國務大臣(島田俊雄君) 重ネテ御答ヘ致シマス、大河内子爵ノ御話ノ、此ノ朝鮮米……外地米ノ生産費ガ低イ、其ノ結果ト致シマシテ、内地ニソレガ入ッテ來テ、第二次統制ヲ行フヤウナ場合ニハ、時價ニ依ツテヤリマスカラシテ、外地ニ於テハ作りサヘスレバ宜イト云フヤウナ狀況ニナルト云フ、其ノ御趣意ハ其ノ通りト考ヘテ居リマス、其ノ通りト考ヘテ居リマシテ、從ツテ此ノ本法案ニ於キマシテ、外地ヲ通ジテ統制ヲスルト云フ所ノ趣意モソコカラ來テ居ルノデアリマス、唯私ノ御答ヘ申上ゲマシタノハ、其ノ趣意ハ左様ニ考ヘテ居リマスガ、併シ第二次ノ統制ヲ行ヒマス場合ニハ、大體ニ於テ米ガダブツイテ、サウシテ價モ非常ニ下落ラスルト云フ際デアリマスカラ、其ノ場合ニ付テ申シマスレバ、時價ニ依ルト申シマシテモ、只今御話ノヤウナ程度ノコト

ハナイダラウ、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居ル意味ヲ申上ゲタ次第デアリマスガ、此ノ米ノ……本法案ノヤウナモノガ出来マシテモ、又現行ノ統制法ニ依リマシテハ尙更、此ノ米ノ關係ニ於キマシテ、内地ニ於テ此ノ統制ヲ行ヒマス結果、外地ニ對シテハドウモ増産獎勵ノ傾向ヲ來スモノデアルト云フコトハ認メテ居リマス、此ノ點ダケ……

○子爵大河内輝耕君 能ク分リマシタ、私ノ質問ハ是デ終リマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 有吉君

(有吉忠一君演壇ニ登ル)

○有吉忠一君 私ハ只今問題ニナツテ居リマス米穀自治管理法案ニ付テ、少シク政府ニ質シテ見タイト思フノデアリマス、此ノ度ノ議會ニ提出サレテ居リマス議案ハ隨分澤山アリマス、其ノ中デモ民間ニ特ニ非常ニ衝動ヲ與ヘテ居リマス法案ハ此ノ案デゴザイマス、從ツテ衆議院ニ於キマシテモ非常ニ周密ニ論議サレテ居リマス、私ハ本會議ニ於ケル討議並ニ委員會ニ於ケル議事録ヲ一讀致シテ見タノデアリマス、ソレニ依ツテ略、本案ニ關スル各種ノ狀況ハ明カニシタヤウニ考ヘマサルガ、尙今少シク私ニ、ソレ等ノ論議ノ中デモ特ニハッキリシテ置カネバナラヌト思フ點ガゴザイマスノデ、其ノ點ニ付テ農林大臣ニ御伺ヲシタイト思フノデアリマス、農林大臣ハ此ノ案ノ必要ナル所以ヲ説明サレルニ付キマシテ、米穀法ガ存在スル限り、アノ通りニ實行シテ行クト云フト、國庫ノ負擔ガ非常ニ殖エテ行クト云フト、救済スル方法ガ必要デ

アルガ、ソレニハ即チ此ノ自治管理法案ガ最モ適當ト考ヘテ之ヲ提出シタト云フ御話デアリマス、之ニ對シテ衆議院ニ於キマシテハ色々質問ガ出マシテ、果シテ政府ハ其ノ米穀統制法ト云フモノヲ、將來ドコ迄モ農村救済ノ最良ノ策トシテ維持シテ行クモノデアルカドウカト云フ質問ガアリマシタ、ソレニ對シテ農林大臣ハ斯ウ云フ御答ヲシテ居ラレマス「統制法ヲ廢止スル意思ナキヤト云フコトニ付キマシテハ、是ハ簡單ニ申セバ、只今廢止スルノ意思ナシ、無論之ニ代ルベキ他ノ根本對策ノ立法ガアル場合ニ於テハ當然廢止セラルベキモノト思ヒマス」、即チ農林大臣ハ、米穀統制法ト云フモノガアル限りハ此ノ自治管理法案ハ必要デアアル、併シ其ノ米穀統制法ト云フモノハドコ迄モ必要ナモノデアアル、政府ハドコ迄モ之ヲ維持スル考デアルカト云フコトニ付キマシテハ、ソレニ對スル或議員ノ質問ニ對シテ、農林大臣ハ「此ノ間本議場デモ申シタヤウニ、此ノ法案ガ結局ノモノデハナイ、ドウシテモ米ニ付テハ農村問題ヲ中心トシテ根本的ナ解決策ヲ立テナケレバナラヌ、ソレニ至ル迄ノ間統制法デヤツテ居ッテハ、政府ノ負擔モ困ルシ、又實際關係者ガ各方面ニ於テ困ル事情ガアルカラ、此ノ法案ヲヤツタト云フコトヲチョット御了解ヲ願ヒタイト思ヒマス」、斯ウ云フ風ニ述ベテ居ラレル、即チ是等ノ問答カラ推シテ考ヘマサルト云フト、政府ハ米穀統制法ト云フモノガ必ズシモ長ク農村救済ノ方法トシテ維持シテ行カナケレバナラヌモノデアルト云

フ風ニハ考ヘテ居ラレヌヤウデアアル、少クトモ現島田農林大臣ハ左様ナル御意思ト私ハ考ヘルノデアリマス、サウスルト島田農林大臣ハ農村救済ノ方法トシテ更ニ何方深ク考ヘテ居ラレル法案ヲ御持チニナッテ居ルモノト推察ガ出來ルノデアリマス、斯クノ如ク根本的ノ方策ヲ御持チニナッテ居ルナラバ、其ノ方策ハ島田農林大臣ガ御在職中ニ之ヲ實現スベク御盡力ニ相成ルコトデアラウト考ヘマスルガ、ソレニ付テ島田農林大臣ハ、是ハナカク容易ナコトデハナイノデ暫ク時ガ要ルト云フコトヲ申述ベテ居ラレルノデアリマス、是モ御尤モデアラウト存ジマスルガ、其ノ時ヲ要スルト云フコトハ農林大臣御在職中ニハ實現ガ出來ヌト云フ御考デアルノヤラ、御在職中ニ是非トモ、ソレヲ實現スベク御盡力ニ相成ルト云フ御考デアルノカ、其ノ點ヲ一ツ確カメテ置キタイト思フノデアリマス、次ニ、既ニ農林大臣ハ此ノ米穀統制法以外ニ更ニ遡ツテ根本ニ入ッテ農村問題ノ解決ヲシヨウト云フ御考ガアルナラバ、ソレ迄御待チニナラズニ此ノ法案ヲ御出シニナッテ云フコトニ付テ、特段ナル理由ガナクテハナラナイ、此ノ問題ハ屢々衆議院デ論議サレテ居リマスケレドモ、ソレニ付テハッキリシタ御答辯ハ此ノ速記録ノ中ニ見出し得ナイノデアリマス、實ニ今米穀取扱業者ハ非常ナル脅威ニ打タレテ、恰モ自分ノ業務ヲ全ク失フモノデアルカノ如クニ感じテ居リマス、是ハ衆議院ニ於テ屢々質問者ニ對シテ、農林大臣ハサウ云フ虞ハナイト云フコトヲ明

言シテ居ラレマス、ドウカ私モ斯ウ云フ虞ノナイコトヲ希望致シマスルガ、併シ農林大臣ガ斯ク非常ニ強ク、サウ云フ憂ハナイ、又ナイヤウニ心配ヲスルト仰セラレテ居リマスガ、ドウ云フ譯デ其ノ虞ガナイカ、又ドウ云フ風ニシテ其ノ虞ヲナイヤウニシテヤルカト云フコトニ付テ、具體的ノ御説明ガナイガ故ニ、今尙米穀取扱業者ハ、非常ナル不安ニ襲ハレテ居ルノデアリマスルカラ、ドウカ此ノ點ニ付テモ明瞭ニサウ云フ不安ノナイト云フコトヲ明カニシテ戴キタイト考ヘルノデアリマス、次ニ此ノ自治管理案ハ各統制組合、町村ヲ單位ニシテ組織サシテ、ソコニ貯藏ヲ命令シテ、ソコニ貯藏ヲサセル、是迄ハ政府ガ米ヲ買ハナケレバナラナカッタ、町村單位若シクハ之ニ準ズル團體ヲシテ米ヲ貯藏サシテ、サウシテ政府ガ買ツクト同一ノ效果ヲ舉ゲルヤウニシテ行カウト云フ方策デアリマス、誠ニ其ノ趣旨ハ巧妙ナル趣旨デアリマスルガ、是ガ果シテ、政府ノ負擔ヲ輕減スルコトハ確カデアリマセウ、併シ政府ノ負擔ヲ輕減スルガ爲ニ、却テ農民ニ負擔ヲ増ス結果ニナルコトハナイデアリマセウカ、其ノ點ヲ伺ヒタイ、是モ衆議院ノ質問ニ對シテ、之ニ要スル運搬費、保管料、金利、是等ハ政府ガ補助ヲ與ヘルカラシテ、團體ニ於テハ其ノ費用ハ要シナイト云フヤウナ、委員會ニ於ケル政府委員ノ説明ガアリマシタ、成程是等ノ費用ニ付テノ負擔ハ、政府ガ補助ヲサレルナラバ免レルデアリマセウ、併シ之ヲ取扱ハレル所ノ人間ニ關スル費用ト云フ

ガ如キハ其ノ中ニ含まレテ居ナイノデアリマスルカラ、當然其ノ設備ニ要スル費用或ハ之ヲ運用スル人ニ要スル費用ト云フヤウナモノハ、是ハ自然農民ノ負擔ニ歸シテ來ルノデアリマス、政府ハ自分ノ都合ノ好イヤウニスルガ爲ニ、却テ農村ノ人々ニ負擔ヲ増スト云フ結果ニ相成ルノデアリカト云フコトヲ心配スルノデアリマス、尙モウ一步進シテ、是ハ、或縣ハ非常ニ豊作デアッタ、或縣ハソレヨリ比較的豊作デナカッタ、地方ニ依ッテ豊凶ノ差ガアリマス、其ノ時ニ政府ハ國家ノ全體ヲ見渡シテ其ノ豊凶ヲ考ヘテ、サウシテ其ノ年ノ十一月ノ一日ヲ現在ニシテ餘剩米ト云フコトヲ推定ヲサレルト云フコトニナッテ居リマス、其ノ餘剩米ノ割當ヲ、各府縣即チ米穀統制聯合會ナルモノニ割當ヲサレル、割當ヲサレル所ト割當ヲサレヌ所トガ起ッテ來ル譯デアアル、サウスルト割當ヲ受ケテ府縣ノミハ貯藏ヲスル、割當ヲ受ケナイ府縣ノモノハソレヲ自由ニサセル、斯ウ云フ過不及ガ起ッテ來ルノデアリマス、不平均ガ起ッテ來ルノデアリマス、其ノ上ニ今度ノ管理法ニ依リマスルト、最低米價一割ヲ超エタ時ニハソレハ賣ッテ宜シイト云フ規定ニナッテ居ル、サウスルト此ノ米穀統制法ノ效果ハ、最高最低ノ米ノ値段ノ變動ヲ少クシタト云フ所ニ非常ナル米穀統制法ノ效果ガアッタノデアリマスルガ、此ノ府縣ノ統制ヲ命ゼラレタ所ト命ゼラレヌ所トハ、勢ヒドウシテモ距離ガ離レテ居ル、サウシテ其ノ上ニ一割ヲ超エタ時ニハ自由ニ賣リ得ルト云フコトニ相成リマスルト、

ソコニ値段ノ變動ヲ、中ニ立ツ仲買人ノ如キ商人ノ爲ニ其ノ機ヲ利用サレテ、値段ノ變動ヲ激シクスルト云フ憂ガ起ッテ來ハシナイカドウデアアルカト云フコトヲ心配サセラレルノデアアル、尙色々疑念ガナイノデアアリマセウガ、大體此ノ三ツニ付テ政府ノ御答辯ヲ煩ハシタイ、尙先程大河内子爵ガ附帶決議ニ付テ御述ベニナリマシタガ、此ノ附帶決議モ米穀検査國營ノ問題ガ中ニ含まレテ居リマスガ、是等モ今府縣ガ實行シテ居ル検査ヲ其ノ儘取ッテ國營ニスルト云フヤウナ、簡單ナル方法デハ出來ナイコトデアルト思ヒマス、之ヲ實行スルニ付テハ非常ナ是ハ熟慮ヲ要スルコトト思ヒマスガ、是等ノコトニ付テ今茲デ申述ベルコトモ如何ト思ヒマスカラ、質問ノ要點ハ以上ノ三項ニ止メテ置キマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 島田農林大臣(國務大臣島田俊雄君演壇ニ登ル)

○國務大臣(島田俊雄君) 只今有吉君ノ御尋ニ對シマシテ御答ヲ申上ゲマス、統制法ノ改廢ノ問題ニ關シマシテ衆議院ノ委員會ニ於テ答ヘマシタル點ニ付テノ御尋デアリマスガ、御承知ノヤウニ、現行ノ統制法ニ至リマス迄ノ間、最初ニ此ノ米ノ問題ガ米ノ供給不足、此ノ事カラ起リマシテ段々米穀法トナリ遂ニ現行ノ米穀統制法ノ規定ニナリマシタ、此ノ經過ニ付キマシテハ是ハ十分御承知ノコトト考ヘマスルノデ、其ノ經過ニ鑑ミマシテ現在ノ統制法ト云フモノガ出來マシタ、即チ米ヲ自由ノ商品トシマシテ絶對ニ之ヲ放任ヲ致シテ置クノ制度ニ

依リマス、ト、豊凶ノ場合ニ於キマシテモ生
産者ニ對シテニ消費者ニ對シマシテ非常ナ
惡影響ヲ及ボシ、從ツテ米方國民ノ最重要ノ
食糧品デアル關係カラ致シマシテ、國民ノ
生活ニ不安ヲ來ス、斯ウ云フヤウナ點カラ
制度ノ上ニ、段々米ニ關シテ相當ノ法制ヲ
必要トスルト云フ、斯ウ云フコトニナリマ
シテ、ソレガ遂ニ今日ノ種々ナ經過ヲ經テ
統制法ニナリマシタモノデアリマス、然ル
ニ此ノ統制法ノ現狀カラ鑑ミマシテ、只今
御話ニモアリマシタ通りニ、國庫ノ負擔並
ニ此ノ需給調節ノ關係カラ致シマシテモ、
尙現行法ニ於キマシテハ不十分ナ所ガアル、
先程大河内子爵ノ御話ニモアリマシタ如ク、
現行統制法ノ儘ニシテ置キマス、米ノ値
下リヲシタ場合ニ政府ガ買上ゲル、買上ゲ
ルニ從ツテ外地米ガ流入シテ來ル、結局幾ラ
買ツテモ外地米ノアル限リハ政府ハ買上ラ
シナケレバナラヌト云フ事情ニ在リマシテ、
此ノ點ニ於キマシテ、外地米トノ關係ニ於
テソコニ缺陷ガアルト云フヤウナ點カラ致
シマシテ、今回ノ法案ヲ提出シタ次第デア
リマスガ、此ノ法案ハ即チ現行ノ統制法ヲ
實行シテ行キマス以上、ドウモ此ノ程度ノ
補強ノ方法ヲ設ケル必要ガアル、既ニ本年
ノ米作ニ付テハ豫想ハ固ヨリ出來ナイ次第
デアリマスケレドモ、此ノ年ニ於ケル作柄
ノ工合ニ依リマシテハ直チニ此ノ米穀統制
法ノ缺陷ガ本年ニ於テモ現レザルヲ得ナイ
ト云フ事情ニ置カレテ居ルノデアリマス、
ソコデ此ノ法案ヲ提出シタ次第デアリマス、

ガ私ノ申上ゲマスル根本ノ方策ト云フコト
ニ付キマシテハ、是ハ米穀ノ問題ニ付テ關
係ヲシテ居ラレル方々何レモ御承知ノコト
ト考ヘテ居リマスガ、米ニ對スル根本ノ問
題、食糧問題ノ點カラ見、又農民ノ狀態、
農村ノ問題、左様ナ大キナ見地カラ見マシ
テ、米ノ問題ニ付キマシテハ、今尙米ヲ自
由ノ商品トシテ全ク自由取引ニ委セルガ宜
シイト云フ議論ト、サウシテ米ニ對シテ今
一層進ンダ統制、即チ或ハ之ヲ國家管理ニ
シマストカ、又ハ專賣ニスルトカ云フヤウ
ナ兩方ノ議論ガアル次第デアリマシテ、此
ノ問題ハ根本的ニ解決ヲセラレズシテ、米
ノ現狀カラ、段々米ノ法制ノ沿革ヲ經テ今
日ニ至ツタ次第デアリマス、ソコデ此ノ現行
法ノ建前カラ致シマシテ米ヲ扱フトスル以
上ハ、現行法ニ對スル相當ナ補強ノ處置ヲ
執ル必要ガアリ、即チ只今ノ法案トナツテ居
リマスル自治管理法案ヲ提出スルノ必要ヲ
認メタ次第デアリマスケレドモ、更ニ週
テ米ノ根本ノ問題ノ解決ト云フコトニ付テ
ハ、是ハ本法ノ規定如何ニ拘ラズ、此ノ法
ヲ離レテ、此ノ國ノ對策トシテ、大イニ考究
ヲ要スル點ガアルト、斯様ニ私ハ考ヘテ居
ルノデアリマシテ、從ヒマシテ此ノ問題ハ
相當大キクアリ、又深イ點ガアルト考ヘマ
スルガ故ニ、此ノコトニ付テ其ノ點カラ申
シマスト云フト、現行統制法並ニ其ノ補
強トシテ今提案シテ居リマス所ノ法案ハ、言
葉トシテハ甚ダ申シ現シニクイノデアリマ
スケレドモ、一種ノ恆久對策デアアルガ、ソレ

ハ根本ノ問題トハ少シク離レテ居ルモノデ
アル、根本ノ問題ニ付テ、之ヲ或人ノ申シ
マスルヤウニ、自由商品ノ昔ニ還スカ、或
ハ更ニ一步ヲ進メ、數歩ヲ進メテ行カト
云フコトニ付テ、ソコニ大キナ岐路ガア
ルト思フノデアリマス、此ノ點ニ付テノ考
究ハ、此ノ問題ノ、此ノ法案ヲ離レテ大イ
ニ研究ヲシ、ソコニ到達スルヤウニ努力
シナケレバナラヌト、斯様ニ考ヘテ居ル次
第デアリマシテ、私ノ在職ノ年限ノ如何ニ
拘リマセズ、左様ナ問題ガ解決スルノ時期ニ
到達シマスレバ、是ハ國家ノ爲ニ誠ニ喜バ
シイコトデアリ、ソレニ付テハ常ニ考ヘテ
居リ、考究ヲシテ見ナケレバナラヌコトト、
斯様ニ存ジテ居ル次第デアリマシテ、直チ
ニ此ノ問題ニ付テ、本法案ノ通過ヲ見ルト
云フコトハ、之ヲ極メテ短期ノ暫定的ノモ
ノト考ヘテ、次ノ問題ニ進ムベキ足取りヲ
進メヨウト、斯ウ云フヤウニ簡單ナ考ヲ以
テ申シタ次第デアリマセス、此ノコトヲ
ドウゾ御諒承ヲ願ヒタイト思フノデアリマ
ス、次ニ本法案ヲ繞リテ、米穀商其ノ他ノ方
面ニ於テ不安ノ氣分ガアル云々ト云フ事柄
ニ付キマシテハ、現ニ此ノ本法案ニ對シテ、
或ハ延期、或ハ否決ヲスルヤウナ意見ヲ持ッ
テ居ラレル方々ノアルト云フコトヲ承知致
シテ居リマス、而シテ本法案ノ上カラ之ヲ
見マスルノニ、是ハ調査會ニ於キマシテモ現
サレタ事柄デアリマスガ、米穀統制法ガ實
施ニナリマシテ、米ノ價值ガ非常ニ少クナ
ル、而シテ此ノ管理法ヲ實施致シマスルト、

尙米ノ價值ガ少クナル、其ノ關係カラ致シ
マシテ、米ノ取扱ヲ致シテ居リマスル所謂
清算市場ト言ヒマスガ、米取引所ト言ヒマ
スカ、此ノ方面ニ對シマシテハ、取引所ノ
機能ノ上ニ重大ナ影響ヲ及ボスコトハ明カ
デアリマス、從ツテ此ノ點ニ付キマシテハ政
府ト致シマシテ、此ノ既設ノ機關ニ對シテ
影響ヲ及ボス點ニ付キマシテハ、相當善後
處置ヲ考究スルノ必要ガアルト考ヘテ居ル
ノデアリマス、唯此ノ米穀商ニ付キマシテ、
米穀商ノ方面カラ之ヲ非常ニ重大視シテ居
ルヤウデアリマスルガ、此ノ點ニ付キマシ
テハ法案ノ上カラ見マスルト云フト、何等
米穀商ニ影響スル所ハ私ハナイト今デモ信
ジテ居リマス、ノミナラズ第二次ノ統制ニ
於キマシテハ、第二次統制ノ場合ニ於キマ
シテハ米ハ既ニ生産者ノミナラズ、或ハ生
産者ノ手ヲ離レテ米穀商ノ手ニ米ガアル場
合ガ相當アルノデアリマス、左様ナ場合ニ
於テ第二次統制ヲ行フ趣意ハ、米ガ供給過
剩デアツテサウシテ値モ亦非常ニ下落スル
ノ虞ガアル、又下落シツ、アルト云フ時期
デアリマス故ニ、其ノ場合ニ第二次ノ統制
ヲ行フノデアリマスカラシテ、米穀商ニ取
リマシテハ相當高イ値段ヲ持ツテ居ル所ノ
米ガ、統制ニ依ツテ……統制ガナケレバ値下
リヲシテ困ルト云フ場合ニ於キマシテ、之
ニ統制ガ行ハレ、貯藏ガ講ゼラレ、サウシ
テソレニ對シテハ能力ナキ場合ニ於テハ買
上ラシテ貫フコトガ出來、或ハ資金ノ融
通ヲ受クルコトガ出來ルト云フコトニナリ

マスカラ、値下リニ依ッテ……供給過剰ニ依ッテ、値下リニ依ッテ蒙ル不時ノ損害ヲ免ル、コトガ出來ルト云フヤウナ利益ガ却テアル、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、唯ソコニ米穀商ニ付テ不安ガアルト申シマスルノハドウ云フ點カト云フト、是ハマア著シイ例ニ付テ申シマスレバ、是ハ此ノ問題ニ關係シテバカリデナシニ、近時起ッテ居リマス所ノ産業組合ト商工業者ノ關係、此處ニアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソコデ此ノ本法案ニ限ラズ統制法ノ時代ニ、現在ノ時代ニ於キマシテモ、産業組合ノ進出ト云フコトカラ致シマシテ、是ガ小賣商人、米ニ付テ言ヒマスレバ米ノ商人、其ノ米ノ商人ノ領域ヲ侵スト云フトノ問題ガアリマシテ、其ノ關係ヨリ致シマシテ此ノ法案ガ通過ヲ致シマスレバ、愈、米ノ商人ガ産業組合ノ進出ニ依ッテ壓迫ヲ受ケル、是ガ問題トセラレテ居ルト、斯様ニ考ヘルノデアリマス、デ此ノ點ニ付キマシテハ曩ニ第六十七議會ニ於キマシテ本案ガ衆議院ヲ通過致シマスル際ニモ、産業組合ノ不當ノ進出、脱法行為、是等ニ付テハ嚴重ナル監督ヲ爲シ、サウシテ法ノ、産業組合ノ設立ノ本旨ニ從ッテ健全ナル發達ヲスルヤウニヤレト云フ附帶決議ガ附イテ居リマシタ、此ノ附帶決議ノ趣意ヲ嚴重ニ行ヒマシテ、此ノ趣意ニ依ッテヤリマスレバ、希クハ此ノ米商人ガ産業組合ノ進出ニ依ッテ壓迫ヲ受クルト云フガ如キコトハナイト、斯様ニ考ヘルノデアリマス、デ私ノ觀察ハ只今申上ゲルヤウナ次第

デ、不安ノ空氣ト云フノハ此ノ法案自體ニハナクシテ、法案ノ關係者、或ハ現行法ノ下ニ於テモ既ニアリマスル所ノ産業組合ノ進出、之ヲ中小商工業者、米商人ト云フ方カラ言ヒマスレバ、ソレヲ不當ノ進出ト云フテ居リマスガ、澤山ナ産業組合デアリマスカラシテ、其ノ組合ノ一ツノ付テハ申上ゲルコトハ出來マセヌ、又現在政府ノ持ッテ居リマスル豫算ハ非常ニ少額デアリマシテ、産業組合ノ監督ト云フトニ付テハ十分其ノ手ヲ伸バスコトガ出來ナイ次第デアリマシテ、是ハ本法實施ニ付キマシテハ、衆議院ノ附帶決議ノ趣意モアリマスシ、又政府自體カラ考ヘマシテモ、組合ノ監督又検査、斯ウ云フトハ厲行スルノ必要ガアラウト云フ見地カラ致シマシテ、相當監督機關ノ強化ヲ圖ルベキ豫算其ノ他ニ付テ、御協賛ヲ仰グベキ機會ガアラウト考ヘテ居リマスルガ、左様ナ意味ニ於テ此ノ産業組合ノ監督指導宜シキヲ得マスルナラバ、ソコニ米商トノ間ノ摩擦ノ起ルベキ道理ハナイ、又起ラシテハイカナイ、産業組合ハ産業組合ノ設立ノ本旨ニ依ッテ健全ナル發達ヲ遂グベキモノデアリ、又米ノ生産者ト米ノ消費者ノ間ニ於テ、米商人ガ其ノ間ニ介在シテヤルト云フトコトハ、是ハ經濟自然ノ發達デアリマシテ、左様ナ間ニ於テ共存共榮ヲ希望スル次第デアッテ、其ノ間ニ摩擦ガ起リ、衝突ノ起ルベキモノデハナク、又起ラズベキモノデモナイト云フトコトガ理想デアラウト思フノデアリマス、唯ソコニ從來ノ

實情カラ致シマシテ、或町ニ於テ、或場所ニ於テ、米商人トサウシテ産業組合ノ米ノ販賣トノ關係カラシテ起リマス其ノ事情カラシテ、不安ノ空氣云々ト云フモノガ際デ居ルト、斯様ニ申セバ申セルノデアリマシガ、事實ニ於テ果シテドレダケノ實害ガ起ッテ居ルカト云フトニ付テハ、此ノ法案ニ關シマスル限リニ於テハ私ハ無イ、又左様ナ虞ガアリマス場合ニハ、此ノ衆議院ノ決議ノ趣意等ヲ鑑ミマシテ、取締ヲ嚴重ニシ、監督指導宜シキヲ得レバ、其ノ憂ハ無クナルモノデアアル、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、又其ノ意味ヲ以テ衆議院ニ於キマシテモ御答ヲ致シテ居ル次第デアリマス、次ニ本法案實施ニ依ッテ貯藏ヲ命ゼラレタ場合ニ、相當ノ補助ガアルガ、其ノ他設備等ニ付テ農民ノ負擔ヲ却テ増シハシナイカト云フノ點デアリマスガ、貯藏ノ爲ニスル倉庫等ノ設備ニ付キマシテハ、是亦相當ノ援助ヲ爲シマシテ、之ヲ成ルベク獎勵シテ造ラセルヤウニ致スヤウナ事情ニナッテ居マスノデ、其ノ點ニ於キマシテ特ニ農民ノ負擔ヲ増スト云フトハ無イノデアアラウト考ヘテ居リマス、又無カラシメルヤウニ努メタイト考ヘテ居リマス、デ農民ハ出來秋ニ於テ安賣ヲシナケレバナラス、端境期ニ於テ高買ヲシナケレバナラスト云フ事情ニ置カレマス場合ニ、端境期ニ於ケル値上リヲ抑ヘ、出來秋ニ於ケル直下リヲ防グ、此ノ働キヲ只今ノ立案ニ依リマス所ノ法案ニ於テ爲ス次第デアリマシテ、又其ノ安賣ヲ

スベキヤウナ場合ニ於キマシテハ、或ハ貯藏或ハ買上ゲ、或ハソレニ對シテ相當ノ資金ノ融通、斯ウ云フトガ出來マスル故ニ、其ノ點ニ付キマシテハ農民ノ負擔ヲ過重スルノ虞ハナイモノト斯様ニ考ヘテ居リマス、一應ソレダケヲ御答ヘ申上ゲマス

○有吉忠一君 簡單デアリマス……此ノ法ノ實施ノ爲ニ不安ヲ感ジテ居リマスル者ニ對シテ、農林大臣ハ其ノ不安ハ法案其ノモノニ基クノデハナイ、運用如何ニ依ルト云フ御話デアリマス、如何ニモ其ノ通りデアラウト思フ、願ハクハ之ガ運用ニ際シマシテハ、サウ云フトノ起ラヌヤウナ方法ヲ執ラレムコトヲ私ハ希望シテ置キマス、尙先程農林大臣ノ御答ノ中ニ、此ノ法……自治管理ニ依ッテ價值ノ變動ガ少クナルト云フトヲ御述ヘニナッテ居ル、私ハ之ガ爲ニ價值ガ多クナル憂ガアリハシナイカト云フトヲ御尋ネ申シタノデアリマスガ、農林大臣ハソコハ反對ニ考ヘテ居ラレル、是ハ意見ノ相違ニナリマスカラ、別ニ是以上申シマセヌ、之ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス

○子爵池田政時君 只今議題ト相成ッテ居リマスル米穀自治管理法案外二件ハ、極メテ重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、特別委員ノ數ヲ二十七名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 贊成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ガゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(角倉書記官朗讀)

米穀自治管理法案外二件特別委員

公爵島津 忠承君 侯爵中御門經恭君

侯爵細川 護立君 伯爵有馬 頼寧君

關屋貞三郎君 子爵前田 利定君

子爵片桐 貞央君 子爵新庄 直知君

子爵立花 種忠君 子爵米倉 昌達君

松村眞一郎君 内田 重成君

塚本 清治君 男爵岩倉 道俱君

男爵高木 喜寛君 男爵本多 政樹君

男爵足立 豊君 男爵長 基連君

有賀 光豊君 各務 鎌吉君

中村圓一郎君 石川 三郎君

上松 泰造君 小林嘉平治君

山本 米三君 絲原武太郎君

大西虎之介君 是ニテ休憩致

○副議長(伯爵松平賴壽君) 是ニテ休憩致

シマス、午後二時ヨリ開會致シマス

午後零時四十一分休憩

午後二時二十一分開議

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ報告ヲ致

サセマス

(角倉書記官朗讀)

本日委員長ヨリ豫算委員佐々木八十八君ヲ

第五分科擔當委員及第六分科兼務委員ニ選

定シタル旨ノ報告書ヲ提出セリ

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ休憩前ニ引續イテ會議ヲ開キマス、日程第十四、昭和十一年勅令第七號、承諾ヲ求ムル件、衆議院送付、會議、中島政務次官

昭和十一年勅令第七號

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月十八日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長 公爵近衛文麿殿

昭和十一年勅令第七號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條第一項ニ依リ災害善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年二月十二日

内閣總理大臣	岡田 啓介
大藏大臣	高橋 是清
内務大臣	後藤 文夫
海軍大臣	男爵大角 岑生
外務大臣	廣田 弘毅
司法大臣	小原 直
商工大臣	町田 忠治
農林大臣	山崎達之輔
鐵道大臣	内田 信也
拓務大臣	伯爵兒玉 秀雄
陸軍大臣	川島 義之
逓信大臣	望月 圭介
文部大臣	川崎 卓吉

勅令第七號

災害善後ニ關シ必要ナル經費支辨ノ爲政府ハ六百十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要ナル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員中島彌圓次君演壇ニ登ル)

○政府委員(中島彌圓次君) 只今議題トナ

リマシタ昭和十一年勅令第七號ノ承諾ヲ求ムル件ニ付キマシテ御説明申上ゲマス、昭和十年度ニ於キマシテ各地ニ起リマシタ災害ニ關シマシテハ、第二豫備金ヲ支出シ一應ノ處置ヲ講ジマシタガ、同年度内ニ於テ必要トスル其ノ餘ノ經費ニ付キマシテハ、第六十八帝國議會ニ於テ衆議院ガ解散ヲ命ゼラレマシタ爲メ、之ニ必要ナル追加豫算ノ成立ヲ見ルコトガ出来ナカッタ次第デアリマス、而シテ右經費ノ一部ハ第二豫備金ノ使用殘額ヲ以テ之ヲ支辨シ得マシタノデアリマスルガ、其ノ大部分ハ之ヲ支辨スルノ財源ガナカッタ次第デアリマス、然レドモ是等ノ經費ノ中ニハ公共ノ安全ヲ保持スル爲メ、緊急ノ事情アリ、總選舉後ニ召集セラレ、帝國議會ノ開會ヲ待ツコト能ハザルモノガアリマシテ、已ムヲ得ズ之ガ財源ヲ公債ニ求ムルコトト致シマシタ、六百十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行スルノ途ヲ開ク爲メ、本

年二月十二日帝國憲法第七十條ノ規定ニ依

リマシテ、昭和十一年勅令第七號ガ公布サレタ次第デアリマス、而シテ右公債ニ依ル歲入金ヲ財源トシ、本年二月十三日勅裁ヲ經、内務省所管ニ於テ二百三十六萬餘圓、農林省所管ニ於テ三百七十萬餘圓、合計六百七十萬餘圓ノ豫算外支出ヲ致シタノデアリマス、何卒御審議ノ上御承諾アラムコトヲ望ミマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御質疑ガナケレバ、本案ハ之ヲ昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外四件ノ特別委員ニ付託致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十五、東北興業株式會社法案、政府提出、衆議院送附、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス、委員長西郷侯爵

(左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ

タメ茲ニ載録ス以下ニ之ニ倣フ)

東北興業株式會社法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及

報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 侯爵西郷 從德

貴族院議長公爵近衛文麿殿

東北振興電力株式會社法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 侯爵西郷 從徳

貴族院議長公爵近衛文麿殿

(侯爵西郷從徳君演壇ニ登ル)

○侯爵西郷從徳君 東北興業株式會社法案竝ニ東北振興電力株式會社法案ノ兩法案ニ關スル委員會ノ經過竝ニ同結果ニ付テ御報告ヲ致シマス、委員會ハ去ル十六日正副委員長ノ互選ヲ致シマシテ、引續キ三日間開會ヲ致シマシタ、十六日ニ先ヅ政府委員ノ説明ヲ求メマシタ所、其ノ大要ハ次ノ通りデゴザイマシク、東北振興ノ根本的方策ニ付テハ、政府ハ曩ニ東北振興調査會ヲ設ケテ鋭意研究中デアリガ、其ノ一端トシテ、同調査會ガ殖産興業及電力ニ關スル特殊會社設立ニ付テ答申ヲ致シタノデ、政府ハ此ノ答申ノ趣旨ニ則リ、今回兩會社法案ヲ提出シタト云フノデアリマス、即チ東北地方ノ深刻ナル窮乏ヲ徹底的打開ヲスル爲ニ、殖産興業ヲ目的トスル特殊ノ興業會社ヲ設立セシメ、之ヲシテ政府ノ施設ト相俟テ、各種産業ニ互ツテ統一の方針ノ下ニ資源ノ開發ヲ圖ラシメルモノデアリマス、又各種産業發達ノ基礎的要件デアリマス所ノ、低廉ニシテ豊富ナル電力ヲ供給スル爲ニ、同地方ニ特殊ノ電力會社ヲ設立セシメテ、之ヲシテ有利ナル水力地點ヲ開發セシムトスルモノデアルト云フノデアリマス、而シ

テ政府ノ期スル所ハ東北ノ爲ニスル東北振興ニアラズシテ、國策の見地ヨリスル東北ノ振興策デアリマシテ、兩法案ハ其ノ一部ノ現レデアルト云フノデゴザイマス、次イデ十六日ヨリ三日間ニ互ル間質疑應答ヲ重ネマシタ、其ノ細部ハ速記録ニ依ツテ御承知ヲ御願ヒ致シマスガ、茲ニ兩法案ニ關スル質疑應答ノ主ナルモノヲ申上ゲマス、第一ソ次ノ通りデアルヤウニ存ジマス、第一ハ兩特殊會社ノ設立ニ依ツテ十二年度以降綜合的振興計畫ガ減殺サル、コトハナイカ、且特ニ行政機構ノ一致等ニ關スル質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ政府當局ヨリ兩會社ヲ設立スルノハ、根本方策ノ一端トシテ之ヲ行フモノデアツテ、十二年度以降ノ綜合的振興計畫ガ、之ガ爲ニ減殺サレルト云フコトハ全然ナイノデアリマス、兩々相俟ツテ東北振興ノ眞ノ目的ヲ達成セシメタイト思ツテ居リマス等デアリマシテ、東北廳ノ設置ニ付テハ、政府ニ於テ之ニ對シテ十分考慮スル旨答辯ガアリマシタ、第二ニハ兩會社ノ規模ハ東北振興ノ見地ヨリ見テ寧ロ小ナリト認メルモ、政府ハ之ヲ大ニスル意思ナキカ、又會社ノ效力ヲ現スニハ、相當ナル時日ヲ要スルト思フガ等ノ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ政府當局ハ、兩會社ノ資本金額等其ノ規模ハ、現在ノ見込ニ於テハ大體十分デアツテ、將來必要アル場合ニ於テハ之ヲ増大スルニ付キ適當ニ考慮スルモノデアアル、又應急ノ事ハ十二年度豫算ニ於テモ、各省ニ於テソレゾレ相當考慮シテ

アルト云フコトデアリマス、第三ニハ東北地方ニ兩特殊會社ヲ設立シテ如何ナル利益ヲ收メムトスルカ、本特殊會社ノ立案ハ大體ニ於テ速急ニシテ不備ノ點アルカノ疑アリト云フ等ノ點デアリマシタ、之ニ對シテ政府當局ノ御答ハ、兩會社ノ設立ニ依リ東北地方ニ低廉豊富ナル電力ヲ供給スル共ニ、同地方ノ各種資源ノ開發ヲ圖ラシメテ、政府ノ施設ト相俟ツテ東北振興ノ實ヲ舉グル趣旨ニ外ナラナイ、即チ兩會社ノ設立ヲ契機トシテ、東北地方ニ各種企業ノ勃興ヲ促シテ、同地方住民ニ就勞竝ニ利潤配分ノ機會ヲ與ヘルト共ニ、肥料等ノ必要品ヲ安價ニ供給スル外、同地方產出ノ各種原料ニ對シ、新ナル需要ヲ喚起セシメルコト、ニナルノデアリマス、且立案ハ東北振興調査會ノ答申ニ基キソレゾレ専門家ノ議ヲ經テ居リ、先ヅ誤リナイト信ズルトノコトデアリマシタ、第四ハ東北振興電力株式會社ノ設置ニ依リ、既設電氣事業者ハ其ノ經營上ニ影響ヲ受クルコトナキカ、且兩會社ノ設立上本來ノ目的ニ反シ、東北救済トナラズシテ、却テ他ヲ利スルガ如キコトナキヤ等ノ御問ガアリマシタ、之ニ對シテ本會社ノ電力ノ約半分ハ、東北興業株式會社ニ供給スル計畫デアツテ、殘餘ノ電力ハ主トシテ既設事業者ニ對シテ卸賣スルモノデアリマスカラ、本會社シテ卸賣スルモノデアリマス、本會社ハ既設事業者ト競争ノ地位ニ立ツモノデナク、從ツテ之ヲ直接壓迫スルコトハアリ得ナイコトデアリマス、且資金、物資、勞力等モ大略東北ノモノヲ以テシ、從ツテ又同地方

民ヲ利潤スル考デアアル等ノ御答デアリマシタ、第五ハ東北振興電力株式會社ト現ニ問題トナツテ居ル電力統制トノ關係ハ如何ニナルカ、殊ニ從來我が國ノ電氣事業ハ民營本位デ現時モ又サウデアアルノニ國營ト云フ風聞ガアルガ、其ノ關係ハドウデアアルカト云フ問ガ出マシテ、政府當局ハ東北振興電力株式會社ハ低廉豊富ナル電力ヲ供給シテ、東北地方ノ産業ノ振興ヲ圖ルコトヲ目的トシテ、直接ニハ電力ノ統制ヲスルモノデハナイガ、眞ニ産業ノ振興ヲ圖ル爲ニハ自然ト電力ノ統制等ノコトモ必要トスルデアラウ、同地方ノ水利權ヲ原則トシテ、本會社ニノミ特許スルト云フ方針ヲ執ツタノモ、斯様ナ點ヲ考慮シタカラデアリマス、從ツテ本會社ノ設立ハ將來ノ電力統制ノ計畫ニモ支障ヲ來スコトガナク、又現在ノ必要ニモ適應スルモノデアリマスト云フ御答デアリマシタ、又國營トノ關係ト云フ問題ハ、直接本法案ニ關係ナイヤウデアリマスガ、質疑應答ハ比較的多クシテ、委員外ノ議員ヨリモ質問ガアリマシテ、質問應答ヲ重ネマシタ、重要ナルコト存ジマスカラ速記録ニ付テ御承知ヲ願ヒマス、尙特ニ政府ニ於テモ一應ノ御注意ヲ御願ヲ致シマス、以上ノ如クニ致シマシテ、大體質問ヲ終リマシテ、昨十八日ニ討論ニ入りマシテ、討論ノ終リニ各委員ノ總意ヲ以テ、兩法案ハ東北振興ニ關スル根本方策ニ對照シテ判斷ヲ要スル法案デアルケレドモ、一方ヲ考ヘルト、兩法案ハ東北地方救済振興上少カラズ有效ナル法案デアツテ、而モ急ヲ要ス

ルト認メルカラ、此ノ際可決ハスル、併シ
何分計畫ハ速急ニ立法シテ不備ナル點モ存
スル如クニ思フ、且又會社ガ實際上ノ經營
ニハ多大ノ工夫ヲ要スルコトト思ハレルカ
ラシテ、東北振興ト云フ根本精神ヲ失ハザ
ル如ク、即チ既設事業ヲ壓迫スルトカ、案外
ニ東北地方ヲ潤サズシテ他ヲ利スルトカ、
又ハ此ノ種半官半民事業ニ付テ從來屢シ生ズ
ル如キ弊害等ヲ生ゼザルヤウニ、政府ニ於
テ十分ナル御監督ト御指導ヲ與ヘラレタ
イ、要ハ委員ガ質問應答中ニ陳述ヲ致シマ
シタ各種ノ懸念ニ付テ、政府ノ十分ナル御
配慮ヲ請フト云フコトヲ、本員ヨリ本議場
ニ於テ開陳致セト云フコトデアリマシタ、
斯様致シマシテ、兩法案ハ全員一致可決ヲ
致シマシタ、終リ

○議長(公爵近衛文麿君) 菅原通敬君

(菅原通敬君演壇ニ登ル)

○菅原通敬君 私ハ只今議題トナッテ居リ
マス兩案ニ對シテ賛成スル者デアリマス、
簡單ニ其ノ賛成ノ理由ヲ申述ベヨウト思フ
ノデアリマス、只今委員長ヨリ極メテ詳細
ニ、又的確ナル御報告ヲ得マシタノデ、私
ノ申述ベヨウト云フ所ノ諸點ニモ往々觸レ
テ御報告ガアリマシタノデ、或ハ時ニ重複
ニ互ルヤウナコトガアルカモ測ラレスノデ
アリマスガ、豫メ其ノ點ニ付テハ御諒承ヲ願
ヒタイト思フノデアリマス、東北振興問題
ガ世ニ提唱セラレマシタノハ既ニ歳久シイ
ノデアリマス、經濟問題トシテハ勿論ノコ
ト、政治問題ト致シマシテモ、亦社會問題

ト致シマシテモ、一日モ捨テ置クコトノ出
來ナイ極メテ緊要ナル問題デアリマスニ拘
ラズ、政府ニ於テモ議會ニ於テモ、長ク之
ヲ閉却シ來リマシタト云フコトハ、實ニ聖
代ノ一大恨事デアッタノデアリマス、幸ヒニ
シテ前内閣ニ於カレマシテ、此ノ問題ヲ取
上ゲラレテ、東北振興調査會ヲ設ケテ、東
北振興ニ關スル根本方策ヲ樹立ト云フモノ
ヲ企圖セラレタノデアリマス、又現内閣ニ
於テハ其ノ方針ヲ繼承サレマシテ、庶政一
新ノ第一著手トシテ、國策ノ第一線ニ之ヲ
立テシメテ、著々其ノ實行ニ向ッテ進ミツ
ツアラレルコトハ、暗澹タル東北ノ天地ニ
光明ヲ與ヘラレルモノデアリマシテ、誠ニ
東北ノ爲ニハ勿論、國家ノ爲ニ喜ブベキコ
トデアリマス、東北振興ノ問題ハ廣ク且深
イノデアリマス、其ノ關係スル所頗ル大デ
アリマス、是レ綜合計畫ノ必要アル所以デ
アリマシテ、其ノ綜合計畫ナルモノハ段々
御説明モアツタ通り、昭和十二年度ヨリ繼
續シテ實行セラル、ト云フコトニナッテ居
ルノデアリマスガ、之ニ先ジテ其ノ最モ
急務ヲ要スルモノトシテ此ノ兩案ガ提出サ
レタノデアリマス、此ノ兩案ハ先刻モ御報
告ガアリマシタル通り、東北地方ニ於ケル
各種ノ産業ニ付テ政府ノ施設ト相俟テ、統
一的方針ノ下ニ資源ノ開發ナリ、經濟ノ振
興ナリ事業ノ助成ナリト云フモノヲ目的ト
シテ、二ツノ特殊會社ヲ設立セムトセラル
ルモノデアリマシテ、誠ニ時宜ニ適シタル
方策デアルトシテ、其ノ趣旨ニハ大イニ贊

意ヲ表スルノデアリマス、唯併シ其ノ内容
ニ付テ吟味致シマスト云フト、其ノ目的達成
ノ爲ニハ、聊カ物足ラヌ不満足ノ點ガアルノ
デアリマス、仍テ私ハソレ等ノ點ニ付テ希
望ヲ添ヘマシテ、本案ニ賛成スルコトニ致
シタイト思フノデアリマス、第一、興業會
社案ニ付テ見マスルト云フト、此ノ東北興
業會社ナルモノハ、東北ニ於ケル産業ノ中
樞機關トナルモノデアリマスカラ、其ノ使
命ヲ全ウセシムル爲ニハ、其ノ會社ノ機能
ノ上ニ、又其ノ資力ノ上ニ、更ニモットノ
一段ノ擴充ヲ加ヘラレナケレバナラヌモノ
デアルト思フノデアリマス、其ノ機能ニ付
テ申セバ、低利ニシテ潤澤ナル資金ヲ供給
スルト云フコトハ、各種産業ノ基礎的要件
デアリマスカラ、此ノ會社ニ金融機關タル
ノ機能ヲ與フルト云フコトガ必要デアルノ
デアリマス、東洋殖産會社、又此ノ頃政府
ヨリ提案サレマシタ臺灣殖産會社ノ例ニ見
ルガ如クニ、事業ノ經營ト資金ノ供給ト云
フ二ツノ業務ヲ、併セ行ハシムルト云フコ
トガ必要デアルノデアリマス、私ノ見ル所
ヲ以テシマスと云フト、事業ノ經營ヨリモ
寧ロ資金ノ供給ノ方が大事デハナイカト思
フノデアリマス、ソレガ急務デハナイカト
思フノデアリマス、資金供給ノ方法サヘ相
立チマスレバ、事業ハ自ラ興ッテ來ルモノデ
アルカラデアリマス、然ルニ本會社ニ付テ
見マスと云フト、事業ノ經營ト云フモノヲ
營業ノ本體トシテ、唯僅カニ事業ニ對スル投
資其ノ他助成ト云フコトニ止ッテ居ルノデ

アリマシテ、金融機關トシテハ東北ニ於ケ
ル現存ノ金融機關ヲシテニ當ラシムルト
云フ方針デアルト云フコトデアリマス、サ
リナガラ東北ニ於ケル現存金融機關ノ現狀
ハ如何デアリマセウカ、私ハ今茲ニ之ヲ説
クコトヲ憚ルノデアリマスルガ、之ニ或改
善ヲ加ヘマシタル所デ、私ハ多ク之ニ期待
ヲ置クコトガ出來ナイノデアリマス、故ニ
私ハ東北ニハ東北ノ特殊銀行ナルモノヲ特
設スルト云フ説ヲ唱ヘ來ッタノデアリマス
ルガ、此ノ事ガ未ダ行ハレザルノミナラ
ズ、新ニ設立セラル、所ノ特殊會社ニ對シ
テ金融機能ヲ認メラレヌト云フコトニナリ
マシタノハ、甚ダ遺憾千萬デアルノデゴザ
イマス、茲ニ於テ私ハ政府ニ望ム所ハ勸業
銀行ナリ、興業銀行ナリ、産業組合中央金
庫ノ支店ノ増設ト云フコトハ、是ハ多々益、
希望スル所デアリマスガ、是ノミニ止ラ
ズ、所謂其ノ他金融施設ノ整備改善ト唱ヘ
ル題目ノモノニ付テ、極力其ノ實現ヲ期セ
ラレテ、低利ニシテ潤澤ナル資金ノ供給ガ
出來ルヤウニ、方法ヲ講ゼラレムコトヲ希
望スルノデゴザイマス、同時ニ此ノ會社ノ
營業目的トナッテ居リマス事業ニ對スル投
資其ノ他ノ助成トアリマスモノニ付テ、餘
リ嚴格ナル解釋ヲ下スコトナク、之ヲバ寧
ロ廣義ニ解シテ、之ヲ活用シテ以テ資金ノ
供給ニ當ラシムルコトノ出來ルヤウニ、政
府ニ於テ指導セラレムコトヲ希望スルノデ
アリマス、次ニ資力ノ點デアリマスガ、委
員會ニ於テ政府ヨリ參考トシテ示サレマシ

タル此ノ會社ノ事業計畫ニ付テ見マシテモ、三千萬圓ノ資本ト云フモノデハ不足ヲ感ズルコトニナツテ居リマス、私ハ少クとも五千萬圓ニ其ノ資本ヲ増大スルノ必要アリト見ルノデアリマス、又社債發行ノ制限ノ如キモ、拂込金額ニ對スル五倍ト云フコトニナツテ居リマスルガ、是ハ他ノ特殊會社ノ例ニ見ルガ如ク、或ハ其ノ約考ヘマシテモ、拂込金額ノ十倍ニ爲スコトガ必要デアルト思フノデアリマス、以上ハ私ハ茲ニ其ノ修正ヲ試ミムトスル者デアリマスセヌガ、徒ニ理想ヲ追ウテ實行ニ遅レマスト云フコトハ、今日ノ東北ノ現狀ハ之ヲ許シマセヌノデアリマシテ、一日モ早く其ノ實行ニ著手セムコトヲ欲スルガ爲メ、此ノ希望ハ他日ニ繋ギマシテ本案ニ贊成スル次第デアリマス、次ハ東北振興電力會社ニ付テデアリマスガ、此ノ事ニ付テモ只今委員長ヨリ詳細ナル御報告ガアツクノデアリマスガ、政府ノ調査ニ依リマスト云フト、發電工事ノ實行ハ十年計畫ニナツテ居ルノデアリマス、十年ノ後ニアラザレバ、其ノ完成ヲ見ルコトガ出來ナイノデアリマス、是カラ將來ノ十年、ナカク前途遠遠デアリマス、其ノ間ニハ色々時勢ノ變化モアルデアリマセウ、餘リニ待遠シイ感ガアルノデアリマス、ソレデ之ニ付テハ極力其ノ工事ノ速成ヲ促進セラル、コトヲ希望スルノデアリマスタ、其ノ發電準備ノ出來ル迄ノ間、今日ノ儘ニ東北ノ狀態ヲ置クト云フ譯ニハ參リ

マセスカラ、何卒既設ノ電力會社ヲシテ其ノ電力料金ノ引下ヲ爲サシムルコトニ、適當ナル行政手段ヲ以テ便宜ノ處置ヲ執ラレムコトヲ希望スルノデゴザイマス、此ノ電力統制ノ事ニ關シマシテ、電力ノ國營論ト關聯シテ論議セラル、方ガ多クカッタノデアリマス、私ノ見ル所ヲ以テシマスト云フト、東北ニ於ケル電力ノ統制ト云フモノハ、先程モ御話ノアリマシタ通り、低廉ニシテ豐富ナル電力ヲ供給スルト云フノデアリマス、會社ノ目的ハ全ク其處ニアルノデアリマス、ソレガ電力ヲ統制サル、ト云フコトハ、目的ニアラズシテ其ノ手段デアアル、其ノ結果ニ止ルノデアラウト思フノデアリマス、會社ノ目的タル電力統制ト云フモノハ、要スルニ低廉ニシテ豐富ナル電力ヲ供給スルニアルト云フコトハ、是ハ間違ナク論デアリマス、東北地方ニ於ケル水力ハ東北住民ノ一大資源デアリマス、此ノ大キナ資源ヲ東北住民ニ享有セシメテ、之ヲ以テ東北ノ産業振興ニ寄與セシメラレムトスルノガ此ノ會社ノ目的デアアル、又電力統制ノ趣旨デアルト考ヘルノデアリマス、私ハ豫テ電力ノ國營論ヲ唱ヘ來ツテ居ルノデアリマシテ、其ノ點ニ於テハ頼母木選相ト略、其ノ意見ヲ同ジウシテ居ルノデアリマスタ、レドモ、此ノ東北電力ノ統制ニ付テ、此ノ案ニ依ル所ノ、此ノ會社ノ目的トスル所ヲ以テ、電力國營ノ目標ニ向ツテ一歩ヲ進メルモノデアルトカ、或ハ其ノ先驅ヲ爲スモ

ノデアルトカ云フコトニマデ説ヲナスト云フコトハ、徒ニ問題ヲ紛更セシムルコトニナルノデハナイカト感ズルノデアリマス、先程申シマシタ通り此ノ會社ノ電力統制ヲ爲スト云フコトト、電力ノ國營論ヲ以テ致シマスルノトハ、其ノ出發點ガ全ク異ルノデアリマス、此ノ間ニ混同ハ許サスト思フノデアリマス、私ハ想フノニ、若シ他日電力ノ國營ト云フヤウナコトガ行ヘル、時ガアルト致シマシテモ、東北地方ノ特殊ナル事情ニ考ヘマシテモ、東北ノ電力ハ東北人ノモノデアルト云フ其ノ觀念、其ノ精神ト云フモノニハ敢テ變ルコトノナイモノデアルト確信スルノデアリマス、東北ニ於ケル山林ハ是モ東北人ノ大ナル財産デアリマス、資源デアリマス、然ルニ東北ニ於ケル山林ハ大半國有林ニナツテ居ルノデアリマス、其ノ國有林ニナツテ居リマスガ爲メ、其ノ營林ニ依ツテ生ズル所ノ利益ト云フモノハ、悉ク皆國庫ノ收入ニナツテ、地方ノ住民ト云フモノハ其ノ利益ヲ一ツモ分ケテ貰フコトガ出來ナイヤウナ状態ニナツテ居リマス、是ガ東北不振ノ一ツノ大イナル原因ヲナシテ居ルノデアリマス、此ノ電力ニ於テモ再ビ其ノ轍ヲ踏ムガ如キコトノナカラムコトヲ今日ヨリ私ハ堅キ楔ヲ打込ンデ置キタイト思フノデアリマス、最後ニ一言ヲ附加ヘテ置キマスルガ、東北興業會社、東北振興電力會社、此ノ姉妹會社ノ設立ニ依リマシテ、東北ニ於ケル産業ノ中樞機關ト云フモノガ具備スルコトニナリマス、東北行政ノ

- 議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセスカ
- 〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
- 議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス
- 子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
- 子爵植村家治君 贊成
- 議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ勳
- 議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス
- 〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
- 議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセスカ
- 議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス
- 子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
- 子爵植村家治君 贊成
- 議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ勳

議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會ヲ開キ

マス、兩案全部、第二讀會ノ決議通りデ御

異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十七、鐵

道敷設法中改正法律案、日程第十八、岩手

輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業

ニ屬スル資産買収ノ爲公債發行ニ關スル法

律案、日程第十九、江當軌道株式會社所屬

軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行

ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、

第一讀會ノ續、委員長報告、是等三案ヲ一

括シテ議題トナスコトニ御異議ゴザイマセ

ヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス、井上子爵

鐵道敷設法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及

報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 子爵井上匡四郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル資産買収ノ爲公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及

報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 子爵井上匡四郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

江當軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止

ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法

律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及

報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 子爵井上匡四郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

〔子爵井上匡四郎君演壇ニ登ル〕

○子爵井上匡四郎君 只今議題トナリマシ

タ鐵道ニ關スル三案ノ特別委員會ノ御報告

ヲ致シマス、此ノ三案ハ、去ル十五日委員

ニ付託セラレマシテ、十六日及十八日ノ兩

日委員會ヲ開キマシテ、三案共全會一致ヲ

以テ可決致シマシタ、先ヅ鐵道敷設法中改

正法律案カラ申上ゲマス、今回ノ改正ハ、

現在ノ豫定線第八十六號、即チ兵庫縣有年

ヨリ岡山縣伊部ヲ經テ西大寺附近ニ至ル鐵

道ニ、赤穂附近ヨリ分岐シテ那波附近ニ至

ル鐵道ヲ追加シ、又福岡縣羽犬塚ヨリ矢部

ニ至ル鐵道、佐賀縣基山ヨリ福岡縣太刀洗

ヲ經テ甘木ニ至ル鐵道、北海道ノ十勝國御

影附近ヨリ日高國右左府ヲ經テ邊富内ニ至

ル鐵道ノ三鐵道ヲ新ニ敷設法別表ニ追加致

シマスト同時ニ、現在ノ豫定線第百二十八

號、即チ函館ヨリ釜谷ニ至ル鐵道ノ終點ヲ

戸井マデ延長セムトスルモノデアリマス、

是等ハ何レモ昭和十一年度ヨリ工事ニ著手

ヲセムトスルモノデアリマス、特別委員會ハ是

等ノ各新線ニ付慎重審議ヲ致シマシテ、何レ

モ或ハ地方資源ノ開發、或ハ地方産業ノ發達、

或ハ距離ノ短縮、或ハ勾配ノ緩和、或ハ軍

事上ノ必要等ノ重要條件ヲ、少クトモ二ツ以

上具備シテ居ル所ノ新線デアリマス、仍テ

特別委員會ハ何レモ妥當ナル改正ト認メマ

シテ、政府ノ提案ニ同意ヲ表シマシタ、次ハ

買収補償ニ關スルモノデアリマス、今回政

府ガ買収セムトスル鐵道ハ岩手輕便、廣濱

鐵道、阿南鐵道、佐世保鐵道ノ四ツデアリ

マス、岩手輕便鐵道ハ國有鐵道ノ東北本線

花卷驛ヨリ仙人峠ニ至ル地方鐵道デアリマ

シテ、既ニ昭和十年度ヨリ工事ニ著手シテ

居リマス、國有鐵道建設線釜石線ノ一部ニ

該當シテ居リマスルニ依ッテ、之ヲ政府ハ買

收セムトスルモノデアリマス、又同地方鐵

道ガ經營シテ居リマス所ノ索道モ、工事ノ

必要上共ニ買収セムトスルモノデアリマス、

第二ノ廣濱鐵道ハ山陽本線廣川驛カラ廣濱

可部ニ至ル地方鐵道デアリマシテ、昭和八

年度起工、十四年完成ノ國有鐵道建設線、

本郷線ノ一部ニ該當シテ居リ、廣濱鐵道ノ

終點附近可部カラ安藝飯室ニ至ル部分ハ、

十一年度中ニ開通ノ豫定デアリマスカラ、

之ヲ今回政府ハ買収セムトスルモノデアリ

マス、第三ノ德島縣阿南鐵道ハ、省線小松

島線ノ中田驛カラ古庄驛ニ至ル地方鐵道デ

アリマス、而シテ國有鐵道ノ牟岐線ハ阿南

鐵道ノ羽ノ浦驛ヨリ牟岐ニ達スル線路デ、

羽ノ浦・桑野間ハ既ニ十一年三月ニ開業致シ

マシタ、元來此ノ阿南鐵道ハ其ノ輸送系統

ニ於テ省ノ小松島線ト極メテ密接ナル關係

ガアルノデ、大正五年以來阿南鐵道ノ列車

ヲ德島驛マデ乘込運轉ヲサセテ居ルヤウナ

次第デ、今回省ノ建設線ノ牟岐線ノ一部ガ

開業スル爲ニ、其ノ運轉上ノ必要カラ政府

ハ買収セムトスルモノデアリマス、最後ノ

長崎ノ佐世保鐵道ハ本線ト支線トニ分レテ

居リマシテ、而シテ其ノ本線ノ大部分ハ國

有鐵道ノ伊佐線、即チ伊萬里ヨリ佐世保ニ

至ル線ニ該當シテ居リ、此ノ省線ノ一部ハ

既ニ開業シ、残りノ區間ハ昭和十四年度ニ

竣功ノ豫定ニナツテ居リマス、故ニ之ヲ買収

セムトスルモノデアリマス、省線ニ該當セ

ザル残りノ部分ハ會社ヨリノ申請ニ依リ、

同ジク政府ハ今回之ヲ買収セムトスルモノ

デアリマス、特別委員會ハ是等ノ諸買収案

ニ付テ審議致シマシタ結果、國有鐵道ノ建

設進捗ニ依リ、是等ノ地方鐵道ハ其ノ一部

ニ該當シマスルニ依ッテ、政府ハ之ヲ買収

スルコトハ當然ト認メマシテ、政府ノ提案

ニ同意致シマシタ、又買収價格ハ何レモ地

方鐵道法第三十一條ノ規定ニ依リ計算セラ

レタモノデアリマシテ、是亦妥當ナリト認

メタ次第デアリマス、次ニ補償ニ關スルモ

ノデアリマスガ、今回政府ノ補償セムトスルモノハ北海道江當軌道デアリマス、元來此ノ江當軌道ハ其ノ運輸セラレタ旅客貨物ハ、主トシテ當別村及其ノ奥地ト札幌、小樽方面ト往復スルヲ目的トシテ居ツタノデアリマス、然ルニ國有鐵道ノ札沼線、即チ札幌ト沼田間ノ線ガ本軌道ニ接近並行シテ敷設セラレマシタ結果トシテ、其ノ旅客貨物ハ殆ド省線ニ奪ハレ、會社ハ遂ニ昭和十一年四月三十日其ノ營業ヲ廢止致シマシタ、是ハ全ク省線ノ及ボセシ結果ニ外ナラナイト認メマシテ、政府ハ其ノ損失ヲ補償セムトスルモノデアリマス、其ノ補償價格モ先例ニ依ッテ計算セラレタモノデアリマシテ、特別委員會ハ何レモ其ノ補償ヲ妥當ト認メ之ニ承認ヲ與ヘマシタ、討論ニ於テハ全部ニ付テノ賛成意見ノ發表ガアリマシタノデ、他ニ反對ノ意見ノ發表ハアリマセヌデ、前ニ申上ゲマシタ如ク此ノ三案トモ全會一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス、終リニ附加ヘテ置キマスガ、是等ノ諸案ノ審議中ニ鐵道政策ノ根本ニ付テノ質疑ガ多ク行ハレマシタ、之ヲ分類シテ見マスト云フト鐵道敷設法ノ再檢討ノ必要ナキヤ、地方鐵道ニ對スル根本方策ノ確立ノ必要ナキヤ、省營「バス」營業方針ノ確立、諸種交通機關ノ統制、小運送ノ改善、鐵道財政ノ根本的再考察、鐵道資金ノ一部ヲ一般會計ニ融通セル會計上ノ形式等ニ大別スルコトガ出來ルト思ヒマス、是等ノ大局的ノ重要ナル問題ニ付テ、特別委員ト鐵道大臣トノ間ニ

詳細ナル質疑應答ガ行ハレマシタ、是ハ此處ニハ省略致シマス、ドウカ速記録ニ就テ御覽ヲ願ヒマス、是ニテ報告ヲ終リマス

○議長(公爵近衛文麿君) 別ニ御發言モナケレバ三案ノ採決ヲ致シマス、三案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 直チニ第二讀會ヲ開ク動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會ヲ開キマス、全部第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二十、商工組合中央金庫法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、大隈侯爵

商工組合中央金庫法案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十一年五月十八日
委員長 侯爵大隈 信常
貴族院議長公爵近衛文麿殿
〔侯爵大隈信常君演壇ニ登ル〕

○侯爵大隈信常君 只今上程ニナリマシタ商工組合中央金庫法案ノ趣旨ハ、先日本議場ニ於キマシテ商工大臣ノ御説明モアリマシタ通りニ、我方國產業ノ根幹ヲ爲シ、社會的ニモ亦重要ナル地位ヲ占メテ居リマス

所ノ中小商工業ノ振興ヲ期スル爲ニ、是等中小商工業者ノ團體タル商業組合、工業組合及輸出組合ニ對スル金融ノ圓滑ヲ圖ル目的ヲ以テ、其ノ中樞的金融機關トシテ新ニ商工組合中央金庫ヲ設ケヨウトスルモノデアリマス、而シテ其ノ立法ノ趣旨ニ對シマシテハ、各委員何レモ時宜ニ適シタルモノトシテ贊意ヲ表シタルモノデアリマス、又本法律案ノ内容ニ付キマシテハ、種々ナル質

問應答ガアリマシタ、只今其ノ主ナルモノヲ舉ゲテ見マスレバ、第一ニ本金庫ハ組合ニ對シテ融通ヲ行フコトヲ目的トシテ居ルヤウデアルガ、今日實際ニ金融難ヲ感ジテ居ルモノハ個々ノ組合員デアルガ、之ニ對スル金融ハ、之ニ依ッテ十分ニ行ハル、モノデアルカト云フ質問ガアリマシタガ、之ニ對シマシテ政府當局ハ、中小商工業者ノ振興ノ爲ニハ、是等ノ者ヲシテ一致團結シテ組合ヲ作ラシメマシテ、共同設備トカ共同仕入トカ云フヤウナ種々ノ共同ノ經濟事業ヲ營マシメマシテ、之ニ依ッテ組合員ノ企業經營ノ改善合理化ヲ圖リマスルト同時ニ、組合ニ於キマシテ、組合員ニ對シマシテ其ノ營業ニ必要ナル資金ヲ融通シ、兩々相俟ッテ中小商工業者ノ振興ヲ期スルコトニ致シタイ、從ッテ本金庫ト致シマシテモ組合ノ是等共同ノ經濟事業ニ必要ナル資金ト、組合員ニ轉貸スル所ノ資金ト雙方ヲ融通致シマシテ、之ニ依ッテ中小商工業者ノ金融ノ改善ニ資シタイト云フ御答デアリマシタ、第二ハ本金庫ノ資金ノ融通ハ、原則トシテ無擔保ヲ以テ行フコトニナッテ居ルガ、時ニ必要ナル場合ニハ擔保ヲ徵シテモ宜イト云フコトニナッテ居ル、是デハ實際ノ運用ニ當ッテ却テ有擔保ガ原則トナルヤウナ虞ハナイカト云フ質問ガアリマシタ、此ノ點ニ付キマシテハ政府當局ハ、本金庫ハ普通ノ銀行等トハ違ッテ、組合ノ相互組織ニ依ル金融機關デアリマスカラ、組合ノ内容ニ付テ平素カラ詳細ニ調査ヲ行ッテ、其ノ事

業ノ成績、經營ノ當否、役員ノ人格、手腕等ニ付キマシテ十分ニ知ルコトガ出來マスガ故ニ、是等ノ點カラシテ組合ノ信用ヲ評定シ、確實ト認メタモノニ限ッテ此ノ組合ニ對シマシテ、物の擔保ノ有無ニ拘ラズ相當ノ資金ノ融通ガ出來ルト考ヘラレマス、併シナガラ此ノ運用ニ付キマシテハ、十分注意致シマシテ遺憾ナキコトヲ期シタイト云フコトデアリマシタ、第三ハ本金庫ノ業務ヲ日本興業銀行ニ代行セシメルト云フ説ガアルガ、是ハドウ云フ譯デアルカト云フ御質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテハ政府當局ハ、本金庫ハ當初カラ獨立ノ機關トシテ設立サレタルモノデアリマシテ、興業銀行ニ經營ヲ一任スルト云フ譯デハナイノデアル、唯經費ヲ節約スル爲ト、中小商工業金融ニ關スル經驗ヲ利用スル爲ニ、當初暫クノ間興業銀行等ノ役員ニ、或程度ニ限ッテ本金庫ノ役員ヲ兼ネサセマシテ、以テ本金庫ノ業務ニ手助けヲシテ貰ハウト云フ趣旨ニ外ナラヌト云フノ御答デアリマシタ、第四ニハ、中小商工業者ノ金融難ヲ緩和スル爲ニハ、本金庫ノ外ニ債務補償會社ヤ、動産抵當等ノ制度ニ付テモ考ヘテ居ルカドウカト云フ質問ガアリマシタガ、之ニ付キマシテハ政府當局ハ中小商工業者ノ金融ヲ圓滑ナラシムル爲ニハ、本金庫ノ活動ニ依ルノミナラズ、其ノ他各程ノ方法ニ付キマシテ、出來ルダケノ考慮ヲ拂ッテ、之ニ依ッテ以テ所期ノ目的ヲ達成シタイト云フコトデアリマス、尙此ノ外ニ種々ノ質

問應答ガアツクデアリマスケレドモ、詳細ノ事ハ速記録ニ讓リタイト思フノデアリマス、斯ク致シマシテ慎重審議ノ結果、委員會ニ於テハ全會一致、本法案ヲ原案通り可決スベキモノト議決致シマシタ次第デアリマス、右御報告申上ゲマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス、全部委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會、全部第二讀會ノ決議通りデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、本日ノ日程ハ全部是ニテ終了致シマシタ、次會ハ明日午前十時ヨリ開會致シマス、日程ハ決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後三時二十七分散會

貴族院議事速記録第九號正誤

頁	段	行	誤	正
一〇一	一	二〇	權政	政權
一〇四	二	二一	サウ云フ思	サウ思
一〇五	三	二八	議會	機會
一〇八	一	一六	ノ軍隊軍隊内	ノ軍隊内

